

# 『マニ・カンブン』における「ナーローの六法」

——観自在菩薩の実践指南 (*dmar khrid*) ——

楨 殿 伴 子

はじめに

『マニ・カンブン』は古代チベット王ソンツェンガンポ王（没 650）の遺言書として伝えられた埋蔵経典（テルマ）である。埋蔵経典はチベット仏教ニンマ宗を起源とするが、その木版印刷版の諸版からも明らかのように、ゲルク派とサキャ派を含めるチベット仏教の諸宗派から汎く受容された聖典である<sup>2</sup>。特に、『マニ・カンブン』はダライ・ラマ五世によって支持されたことが先行研究によって指摘されている<sup>3</sup>。『マニ・カンブン』はその全編にわたって観自在菩薩と彼の六字真言「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン (*om ma ni pad me hūm*)」の功德を説示する。同時に、観自在菩薩の化身としてのソンツェンガンポ王の偉業と衆生利益が説き明かされている。

『マニ・カンブン』には、中有 (*bar do*)、遷移 (ポア *pho ba*)、幻身 (ギェル *sgyu lus*)、光明 (ウセル *'od gsal*)、トゥンモ (*gtum mo* チャンダーリーの火)、トンジュク (入屍体 *grong 'jug*) が説示されている。『マニ・カンブン』には「ナーローの六法」という用語はないが、これら六枝分は、「ナーローの六法」として数えられる教えである。『マニ・カンブン』において、これら「ナーローの六法」を構成する枝分が「実践指南」(*dmar khrid*) と呼ばれる観自在菩薩の成就法 (*sādhana*) の要素となっている。この「実践指南」の作者にソンツェンガンポ王の名前が記名されている。

では、「ナーローの六法」を包括する「六字真言成就法」の綱要<sup>5</sup>は、拙稿<sup>6</sup>で指摘したように、観自在菩薩の「六字真言成就法」では、仏道における基・道・果の三行程において大悲心者が行者に常住していることである。「六字真言成就法」は、行者が大悲心者と離れず、常に両者が一体であるあり方の実践法を指南する。

そこでは、自心仏と自身仏が説示され、心身共に仏である即身成仏の思想が展開されている。「ナーローの六法」もそのような仏道の構想の中にあり、その構想を実現するための実践法である。それが、『マニ・カンブン』における「ナーローの六法」の特徴である。

先行研究が指摘しているように、チベットにおける観自在菩薩成就法の系譜には、本稿で取り上げるソンツェンガンポ王に帰される系譜を含めて複数の系統がある。ジャネット・ギャツォ氏 (Janet Gyatso 1981: 100–105) は、インド・チベットにおける観自在菩薩の成就法の展開と、『マニ・カンブン』を含むチベットにおける五つの系統について言及している。ギャツォ氏は、チベットにおける、四手の観自在菩薩の六字真言成就法の導入者はアティシャであると推定している<sup>7</sup>。さらに、観自在菩薩の成就法にマハームドラとゾクチェンが組み込まれていると指摘されている<sup>8</sup>。チベットにおける系統のうちの一つはツェンプ (Tshem bu) に帰される。フランツ・カール・エールハルト氏 (Franz-Karl Ehrhard 2000) は、ツェンプの系統から『マニ・カンブン』の最初期木版印刷版が出版される経緯を追っている。その中で、ツェンプの系譜にジョナンパの始祖たちが含まれていることが指摘されている (Ehrhard 2000: 201)。マシュー・カプスタイン (Matthew Kapstein) 氏は、カルマパ3世ランジュン・ドルジェ (1284–1339) とニンマ派のロンチェンパ (1308–1363) をソンツェンガンポ王の伝統による観自在成就法の系譜の解説において言及している (Kapstein 1992: 85)。ここで言及される観自在菩薩成就法の伝承者たちは、チベットにおける『宝性論』の二つの伝承系譜のうち、ツェンカオチェによる瞑想学派の系譜と一致してくる<sup>9</sup>。彼らは後に中観他空派として知られるようになる。

「ナーローの六法」は、インドの大学僧かつ密教修行者ナーローパ (1016–1100) の名前を冠し、チベットにおいて、宗派を問わず修行される密教の教えである<sup>10</sup>。ナーローパの師匠であるティローパの『六法秘伝』(Ṣaḍdharmaopadeṣa, Chos drug gi man ngag, D. 2330) には、チャンダーリーの火 (tṣaṅḍa li yi me)、幻夢 (sgyu ma rmi lam)、光明 ('od gsal)、中有 (bar do)、選移 ('pho ba)、トンジユク (grong 'jug) が言及されている。同書の翻訳者はナーローパとマルパである。ナーローパに師事したマルパ (1012–1097) はカギユ派の始祖となる。ゲルク宗の始

祖ツォンパカ（1357-1419）による「ナーローの六法」解説書『三信具足』について、先学の研究がある。『三信具足』では、『マニ・カンブン』に現れる「ナーローの六法」の六肢分と同じ六肢分が六法を構成する（ケサン・山田1999: 97）。ツルティム・ケサン氏は、ナーローの六法がツォンカパに至るまでの伝承系譜にディグン・カギユ派、カルマ・カムツァン系カギユ派を指摘している。ツォンカパの直接の執筆動機として、パクモ・ジユクパ政権の法王の依頼によって、ツォンカパが「ナーローの六法」の彼自身の註釈書『三信具足』を執筆する経緯を説明している<sup>11</sup>。苦米地等流氏（1992）は、平松敏雄氏（1986）の研究による「ナーローの六法」と『秘密集会』「五次第」（Pañcakrama）の研究を踏まえ、ナーローパの『五次第註』（Pañcakramasamgrahaprakāśa, D, 2333）を取り上げ、「五次第」がツォンカパにどのような意義を持つのかについて考察し、さらに、六法の各々の教えの起源と依拠する典籍や祖師について指摘している<sup>12</sup>。渡邊温子氏（学位請求論文2014年）によると、マルパがナーローパから伝授された教えは「五次第の口伝」『秘密集会』「ポア」「トンジユク」が含むが、「ナーローの六法は全てをひとまとめにというよりは個々に修習され、それぞれの独立性が高い<sup>13</sup>」という見解が示されている。カギユ宗のコントゥル・ロジュタイェ（1813-1899）編纂『口授蔵』（gDams ngag mdzod）における「甚深なマハームドラーとナーローの六法」（Zab lam Phyag chen Chos drug）に収録された一節は、「ポア」の系譜について、ティローパ→ナーローパ→マルパ（1012-1097）→ミラレパ（1040-1123）<sup>14</sup>→ガンポパ（1079-1153）<sup>15</sup>と記している。

「ナーローの六法」のうちの「中有」は、特に、『チベットの死者の書』としてよく知られている。川崎信定氏は、後世の『チベットの死者の書』は、「ナーローの六法」の一支分を作る中有の教えが拡大増広し、灌頂なども添加していったものと捉えている<sup>16</sup>。さらに、川崎氏は、それとは別系統のニンマ派に由来する『チベットの死者の書』を指摘している<sup>17</sup>。マシュー・カプスタイン氏は、710年にチベットに到着した中国妃によってもたらされた葬送儀礼が後に『チベットの死者の書』として知られていくと伝えている<sup>18</sup>。『マニ・カンブン』の「六字真言成就法」には葬送儀礼が含まれていることから、「六字真言成就法」を構成する葬送儀礼と「ナーローの六法」から「死者の書」が形成されたかもしれない可能性につ

いても調査する必要があるだろう。<sup>19</sup>

以上で概観した先行研究は、『マニ・カンブン』に説かれる「ナーローの六法」の起源について示唆を与える。一つには、『マニ・カンブン』における「ナーローの六法」は、『マニ・カンブン』に『秘密集会』の影響があることを強く示唆する。実際に、『マニ・カンブン』の「護法王ソツェンガンボ王の業績と伝記」章に「『聖秘密集会』の曼荼羅」(dpal gsang ba 'dus pa'i dkyil 'khor)<sup>20</sup>が言及されていることから『秘密集会』の影響が文字通り確認される。

『マニ・カンブン』における自心仏の教えが『大日経』に基づくことが既に分らくなってきているため、<sup>21</sup>『大日経』から『秘密集会』に至る密教の教義と実践の流れを『マニ・カンブン』に集約的に見ることができるのではないかと推定する。『大日経』から『秘密集会』に継承されたとされる「勝義菩提心」<sup>22</sup>を例に取ることでもできよう。「勝義菩提心」は『マニ・カンブン』の「ゾクチェン」章における法性勝義菩提心<sup>23</sup>や、マハムドラー修習の準備としての、観自在菩薩の灌頂儀礼においても見られる。<sup>24</sup>「ナーローの六法」を統括する「六字真言成就法」においては、秘密の眷属として「印女」(phyag rgya ma)を同伴することが説かれている。<sup>25</sup>勝義菩提心はツォンカパ註の「ナーローの六法」に説示されている。<sup>26</sup>

本稿は、以上の先行研究を踏まえ、『マニ・カンブン』に説かれる「ナーローの六法」の考察を通して、前伝期から後伝期に至るチベット密教の継承者の系譜を解明するを意図する。リンチェンサンポ(958-1055)とアティシャ(984-1054/1055)入蔵後の後伝期チベット仏教における密教の系譜を解明する手がかりが得られることを期待する。特に、観自在菩薩の成就法の実践者と「ナーローの六法」の継承者が符合することに着目する。先述したように、ランジュン・ドルジェを含むカルマ・カンツァン系カギユ派、ロンチェンパ、ジョナンパは他空派であり、『宝性論』の瞑想学派である。瞑想学派は第三法輪を了義とし、勝義諦における一切衆生悉有仏性を唱導することを特徴とし、密教の実践を通してそれを悟得する。

以上を踏まえ、本稿は、『マニ・カンブン』における「ナーローの六法」の内容を解説し、その特徴について考察する。「ナーローの六法」は、観自在菩薩の「六字真言成就法」の一構成要素としての実践修行法である。特に、心身と仏の関係

についての記述に着目し、「ナーローの六法」の実践修行の中で、どのような方法で心身が仏として同定される過程を明らかにする。延いては、この考察を通して、前伝期から後伝期に至るチベット仏教における如来蔵思想史の再構築を目指す。

## 『マニ・カンブン』における「ナーローの六法」の枝分が現れる箇所

『マニ・カンブン』は「成就巻」「口授巻」「経巻」の三つに大別されるが、「ナーローの六法」の枝分はそのいずれにも現れる。以下に、それぞれの巻において「ナーローの六法」の枝分が現れる箇所を示す。

### (1) 「成就巻」(sgrub skor) における「六字真言成就法」章

『マニ・カンブン』「成就巻」における「六字真言成就法」章 (Ṣaḍakṣarisādhana), 別名で「大悲心如意宝珠莊嚴六字真言権化節」(thugs rje chen po yid bzhin nor bu'i rgyan | yi ge drug pa 'phrul gyi dum bu) と題される章では、ソンツェンガンポ王の流派とされる観自在菩薩の成就法である「実践指南」(dmar khrid) が説示されている<sup>27</sup>。その中で「中有」と「密教の六肝要」(gsang sngags kyi gnad drug) が説かれる。中有は「六字真言成就法」の「本行」<sup>28</sup>の枝分であり、残り五枝分は「密教の六肝要」に含まれ、「六字真言成就法」の結部<sup>29</sup>に説かれる。一旦、「六字真言成就法」が奥書をもって完結した後、結部に列挙された項目の解説が後続する。つまり、「六字真言成就法」は根本タントラと積タントラのような関係で成立していると仮説する。そのように仮定したとき、「中有」は根本タントラに含まれ、残り五枝分は積タントラに含まれることになる。

「中有」は六つの枝分を持って解説される。六つとは、(1)「自性を住処とする中有」(2)「生死の中有」、(3)「前後の認知の中有」、(4)「夢の中有」、(5)「臨時時の中有」、(6) 輪廻転生の中有における高中下三品である。六中有は、「六字真言成就法」の「大註釈」における「六中有の口伝による解脱法の解説の権化節」<sup>30</sup>と題された節で註釈されている。

「密教の六肝要」は、(1) 脈管と息風 (rtsa rlung)、(2) ポア (遷移 pho ba)、(3) トンジュク (入屍体 grong 'jug)、(4) ギユル (幻身 sgyu lus)、(5) ウセル

(光明 'od gsal)、(6) トウンモ (内熱 gtum mo) である。脈管と息風は、特に「ナーローの六法」の支分を構成しないが、「六字真言成就法」における六法の教えに共通して見られる。<sup>31</sup>『マニ・カンブン』においては、「脈管と息風」の枝分において、「自分自身を大悲心者として修習する」<sup>32</sup>こと、「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーンと心で念誦するとき、中央脈管に当たって、法性が自ら明瞭に顕現する」<sup>33</sup>と説かれているように、自身と仏が同定され、六字真言念誦の作用関係について説いている。

「中有」と「密教の六肝要」の各項目は、さらに六項目 (外・内・秘密・真意・徴・特徴) に区分されて説明される。

## (2) 「口授巻」(Zhal gdams kyi skor) における「六中有」と「ポア」

「成就巻」の「六字真言成就法」で示された六つの中有は、『マニ・カンブン』「口授巻」における「大悲心者の中有-暗闇を除去する燈明の口伝-」章でさらに詳細に解説されている。<sup>34</sup>つまり、「成就巻」の中有と「口授巻」のそれとの関係は要約版と広大版の関係とみなすことができるだろう。「ポア」も、『マニ・カンブン』「口授巻」における「化身の王の遷移の口授」章でさらに説示されている。<sup>35</sup>「口授巻」は伝統的に『マニ・カンブン』の「発見者」(テルトン gter ston) の一人であるニンマ派のニャンレル・ニマ・ウセル (Nyan ral nyi ma 'od zer, 1124/1136-1192/1204)<sup>36</sup>を作者とするため、12世紀に遡る。<sup>37</sup>

## (3) 「経巻」(mDo skor) における「トンジュク」

「トンジュクは、『マニ・カンブン』「経巻」において、ソンツェンガンポ王の本生譚 (ジャータカ) の一つを構成する「レヌ王子として転生したときの行」<sup>38</sup>章で説かれている。<sup>39</sup>この章では、トンジュクによって、姿が畜生となった実践者が、四無量心のうちの悲無量心によって、衆生利益を為すことが説かれている。

## 「ナーローの六法」六枝分の内容

次に、『マニ・カンブン』における「ナーローの六法」の6枝分 (1. バルド・中

有、2. 遷移・ポア 3. 入屍体・トンジユク 4. 幻身・ギユル 5. 光明・ウセル 6. 内熱・トウンモ) の内容を解説する。

(a) 「成就巻」における中有

「成就巻」における「六字真言成就法」の「六中有」は、『マニ・カンブン』の他の箇所説かれる「中有」の祖型であると思われる。そこには、中有の六枝分が、比喩によって例示されている。心と仏性の関係については、「自性を住处とする中有」において、「心は仏として導入される」<sup>40</sup>と説かれている。「あるがままのあり方を認知して、自身の真髓を自分が認知することで仏となる。衆生の心と仏の御心は区分なく、あるがままのあり方において一つである。あるがままのあり方を悟得することによって、仏として導入する」<sup>41</sup>と解説している。「大註釈」は、その意味を、母親は「広大に遍満するあるがままのあり方」(khyab gdal chen moï gnas lugs) であり、息子は明知 (rig pa) である。母親は、「六字真言成就法」の「大註釈」において、「大悲心者の心」として解説されている。<sup>42</sup>「六字真言成就法」の「生死の中有」において、明知力 (rig pa rtsal) が向上する。「明知力」は『マニ・カンブン』において重要な用語である。「観自在菩薩の灌頂儀礼」においては「明知力」は灌頂の一枝分を構成している。<sup>43</sup>「六字真言成就法」における「生存（輪廻転生へ向かうため）の中有」は、機根を三つに分けて、上中下の三品の解脱の違いを説く。以下に、「六字真言成就法」に説かれる中有を「大註釈」と共に訳出して示す。

(1.1) 生存時の中有

「自然にある〔生存時の〕中有」は、母親の膝から息子が擦り落ちるのに似ている。母親－大遍満する、あるがままのあり方－から、息子－明知 (bu rig pa) の一片を切断するとき、母子のシンボル (brda) が結ばれて、輪廻と涅槃が分かれる。心を仏として導入する。<sup>44</sup>

「大註釈」

第一。「自然にある中有は、母親の膝から息子が滑り落ちるのに似ている」とは。

「自然にある中有」とは、仏と衆生両者の基であるので、「住することによる中有」と定義される。基のあるがままのあり方を悟得しない無明によって、母親の膝から息子が滑り落ちるのに似ており、輪廻に生まれて、身体を取ることを意味する。「母親-大遍満する、あるがままのあり方から」とは、あるがままのあり方は母親と似ている。上限は仏から、下限は阿鼻地獄の地獄の住人たちまで同等に偏向なく遍満して住することである。そこから、「息子・明知の一片を切断する」とは、あるがままのあり方の意味は、無明を認知しないので、息子・明知の一片は輪廻に生まれて、六道の一つから一つに輪廻する。「母子のシンボルが結ばれる」とは、母親、つまり、捏造ではない、大遍満するあるがままのあり方が自身 (rang) にあるが、息子、つまり自身の明知 (rang gi rig pa) は、あるがままのあり方を認知しないので、母親は息子を認知するが、息子は母親を認知しないとき、「母親と息子のシンボルが結ばれ、輪廻と涅槃が峻別される」とは、輪廻のあるがままのあり方を認知しないので、輪廻から六道に彷徨っているのである。〔彷徨いを〕超えてあるがままのあり方を認知すると、三身として仏となる。「衆生<sup>45</sup>を仏として認知する」とは、衆生は、あるがままのあり方によって遍充されていないので、あるがままのあり方を認知して、自身の真髓を自分が認知することで仏となる。衆生の心と仏の御心は区分なく、あるがままのあり方において一つである。あるがままのあり方を悟得することによって、仏だと導入する<sup>46</sup>。

## (1.2) 生死の中有

「生死の中有」は、ハゲタカの子供を母親が育てるようにである。ラマの口授を階梯に沿って習熟することによって、堅固にすべし。明知の力 (rig pa rtsal) が向上して、清浄になるので、六道の崖を恐れることはない<sup>47</sup>。

### 〔大注釈〕

第二。「生死の中有は」について。「生死の中有」と呼ばれるものは、最初に、母親から生まれて、最後に死ぬまで、ガルダの子供あるいは「ハゲタカの子供を母親が育てるように」とは、ガルダあるいはハゲタカの子を母親が育てて、子供の羽力を訓練することによって、崖を恐れることはなく、空を完全に切るように、「ラマの口授を階梯に沿って習熟することによって、堅固にすべし。」というのは、ラ



マの口授は「あるがままのあり方の意味は、『私は甚深に造られたものではない。衆生は技術で作られない。自ずから明瞭、自生、自顕、自解脱、自住の内に、最初に認知する』。次に、練習修習によって、心相続に習慣づける。最後に、堅固さを獲得して、「明知の力が向上する」とは、明知は現象の中で力（rtsal）を浄化する。現象は心だと知りなさい。心は空、自ら顕現し、自解脱すると知りなさい。「六道の崖に恐れるな。」とは、地獄が自身の心だと知れば、暑さ寒さの苦はその場で解脱する。餓鬼が自身の心だと知れば、飢えと渇きの苦はその場で解脱する。畜生が自身の心だと知れば、利用されたり殺傷されたりすることはその場で解脱する。人が自身の心だと知れば、変化の苦はその場で解脱する。阿修羅が自身の心だと知れば、闘争の苦はその場で解脱する。天が自身の心だと知れば没落の苦はその場で解脱する。六道は心の現れだと知り、心は空だと知り、空に苦はないので、六道輪廻に生まれる崖を恐れない。<sup>49</sup>

### (1.3) 「前後の認知の中有」

「前後の認知の中有」は「暗闇に燈明を照らすように、明知が輝く」。「分別が智慧として輝き、法性が途切れることなく導入される」<sup>50</sup>。

#### 「大註釈」

第三。「前後の認知の中有」とは。過去は以前に失われぬ。未来は後に失われぬ。現在の知識は一刹那に自ずから明瞭で自生起するものとして現れるということを理解することが、「暗闇に燈明を照らすように」と言われる。たとえば、暗闇にバターランプ、あるいは燈明を掲げることによって、暗闇を断ち切ると、現象の閃光が来るように、「明知が輝く」。「明知が輝く」とは、明知が自生起し、自明瞭、自現すると認知することによって、智がさらに現れる。「分別が智として煌めくとき」とは、粗雑な分別・微細な概念のいずれでも現れると、自生起し、自顕現、自明瞭で、きれいであるとき、分別は智として現れる。「法性が途切れることなく、導入される」とは、分別には途切れないので、智は途切れなく現れ、法性は、途切れることなく、自解脱すると同定する。<sup>51</sup>

#### (1.4) 「夢の中有」

「夢の中有」は、悪い源 (khungs) に借財の返礼<sup>52</sup>を得るように習熟することによって、堅固な徴が現れる。夢と生存 (輪廻転生へ) の中有は似ているので、不安のない確信を獲得するとき、自在力が自分に有ると導入する<sup>53</sup>。

##### 「大註釈」

第四。「夢の中有」とは、睡眠が終わって、続いて目覚めない間は、様々な夢を見るとき、「悪い源に〔借財〕を堅固さを得たように」と言われる。たとえば、悪い源から関係を捨てたとき、良い堅固さを得るとき、その関係は消えて、制御がなくなるのに疑念ないように、「堅固に習慣づけられた徴が現れる」。「つまり、実践練習に、堅固さを獲得することによって、夢に、毎日の経験が現れるなら、「夢と輪廻転生の中有は似ている」と言われる。夢の現象は、他の六根の現象ではなく、心の現象である。体験の「確信を獲得する」<sup>54</sup>と言われる。「その意味は、自身に、法性が自現し、自解脱する経験の確信と離れずに堅固さを獲得するので、「自身に自在力を獲得すると導入する」と言われる。明知が心に自在力を獲得するとき、輪廻にさまよう意味がないので、仏に無所得の力がないと導入する<sup>55</sup>。

#### (1.5) 「臨終時の中有」

「臨終時の中有」は、優しい叔母の家に甥が行くのに似ている。前〔行〕でラマの口授に習熟することで堅固さを獲得した後、死を喜んで、動揺しない。不明瞭な認知は明瞭なものとして導入される<sup>56</sup>。

##### 「大註釈」

第五。「臨終時の中有」とは、呼吸が途絶えず、原素が次第に融解するとき、土が水に融解するので、身体は耐えられない。水が火に融解するので、口と鼻が渴く。火が風に融解するので、熱が足の裏から切れる。風が意識に融解するので、息が鼻から外に出されるが、内側に集めることができない。意識が光明に融解するので、外呼吸が途絶えて、現象が止まる。「優しい叔母の家に甥が行くのに似ている」〔を積する〕。たとえば、世間では、優しい叔母の家に甥が行くということは、飽きな

く、誇りのような気持ちが生ずると同様に、「以前に、ラマの口授に習熟して堅固さを獲得しているとき」〔を釈すると〕、臨終が起こる以前、生死の中有について、以前にラマの口授を得ていたので、自身が自身を認知し、次に、練習によって習慣づけて堅固さを獲得して、輪廻を恐れない自信がついているとき、「臨終時に、死を喜んで、動揺しない」。〔釈すると、〕自心に力を得ているので、死んで、仏となることで喜ぶ。輪廻を恐れないので、動揺しない。「不明瞭な意識を明瞭なものとして導入する」とは、原素が次第に融解していくとき、訓練した意識が実際には不明瞭で怠惰であるとき、明知が一掃され、法性が一掃される。あるいは、ラマ、あるいは、同僚の僧侶を幻視して導入する。<sup>59</sup>

#### (1.6) 「生存（輪廻転生へ向かうため）の中有」

「生存（輪廻転生へ向かうため）の中有」は、機根を三つに分けて、上中下の三品の解脱の違いを説く。壊れた灌漑用水を修繕すること<sup>60</sup>に似ている。吐く息は止まるが、内側の息は止まらない。法性は持続的に堅固である。上品はそれで解脱する。中品は中有を知ることによって、解脱する。下品は中有で本尊（Iha）が授記して、解脱する。機根が高・中・下の三品の解脱の方法である。<sup>61</sup>

#### 「大註釈」

第六。「輪廻転生の中有」について。体と心が離れて、明知を失い、覚醒して、輪廻転生して生を取らせる現象が現れる。身体を取ることなく、輪廻転生の中有と言われている。「壊れた灌漑用水を修繕するのと似ている。」〔を釈すると、〕たとえば、壊れた灌漑用水を修繕すると、水が直行することに似ている。「外呼吸が途絶えて」とは、外呼吸が途絶えると、意識が光明に融解するので、熱が消えたとき、内呼吸が光明の内に留まる。「法性が持続して結びついて」とは、以前に実践修行した人の法性－空・光明－と意識が光明に融解する。光明と光明が混ざるように、区別なくなるので、法性が障蓋なく、持続して結びつくとき、「最上の堅固さを持つ者は解脱する」とは、以前に行った実践が堅固な者は、意識が光明に融解し、光明を認知し、明知の本質を知り、法身として解脱する。「中品は、中有を認知することで解脱する」とは、堅固さが中位の者は、法性－光明－は尽きないけれども、

中有で意身を取って、現象がかき混ぜられて、それが、中有だと知るとき、大悲者の語、六字真言を念ずることによって、大悲者の受用身として解脱する。「下品は中有で本尊が授記することによって、解脱する。」とは、中有が尽きなければ、業の風によって、上品は、法身として解脱する。中品は受用身として解脱する。下品は化身として解脱する。三身を導入する。<sup>62</sup>

(b) 「口授巻」における中有

「大悲心者の中有・暗闇を除去する燈明の口授」章では、大悲心者に帰命した後、上記の「六字真言成就法」で示された六つの中有が例と共に導入され、各々がさらに解説されていく：

化身の王ソツェンガンポの六中有の口伝には六つある。そのうち、(1) 自性に住する中有は、母親の膝から息子が滑り落ちるようである。(2) 生死の中有は、ハゲワシの子供を母ハゲワシが養うようである。(3) 前後の認知力の中有は、洞穴に燈を灯すようである。(4) 夢の中有は悪い源泉に戻しを獲得するようなものである。(5) 臨終時の中有は、優しい叔母の住居に甥が行くようである。(6) 生存の中有は壊れた灌漑用水を修繕することに似ている。<sup>63</sup>

そのうち、(1) 「自性に住する中有」(rang bzhin gnas pa'i bar do) は上中下の三つの機根の違いを説く：

〔機根が〕上品の者は、基のあるがままのあり方を悟得することによって、成仏(sangs rgya) する。中品者は、臨終時に法性・光明を認知することによって、中有なく成仏する。下品は、中有を認知することによって、成仏するのである。<sup>64</sup>

六道輪廻を彷徨う衆生は、路上生活を送る王子に例えられる。散漫になった王子は市場に彷徨い出て、帰れなくなり、ぼろ着を着て、残飯を食べ、道端で寝る苦しみに陥る。そのような王子の路上生活を六道輪廻の苦に例え、輪廻をどのように反転させるかを説明している。そこで、「大慈悲者の意図を持つ」ラマは、路

上で王子を認知し、連れ戻す役割を果たす大臣に例えられる。弟子は、王子に例えられる。母親、つまり「大遍満のあるがままのあり方」が自分自身に存在していると説かれる。心の本性 (sems nyid) は空かつ明瞭と説かれている：

さて、輪廻を彷徨うのをどのように反転するのか。例のように、放浪している王子が、大臣一人と会ったとき、「王子だ」と認知して、連れ戻し、母親と再会したとき、息子も母親を認知し、母親も息子を認知するように、今、清浄な人身を獲得したときに、大臣のような師匠 (bla ma) は大悲心者の意図を持った者である。弟子〔である〕王子が放浪しているように、今、輪廻にいても、業と〔よい〕分け前 (skal ba) を持っている者に、母親・大遍満のあるがままのあり方が自分自身にある。息子・明知の節は、放浪している王子のように、法性－空と明瞭－から、明知－明瞭で止むことない－が、顕現するが、心の本性 (sems nyid) －空と明瞭－の内から顕現する。融解するが、心の本性－空と明瞭－の内に融解するので、法性・母が、息子・シンボルと結合する。<sup>65</sup>

次に、五智が顕現する。五智のうち、「成所作智」(bya ba grub pa'i ye shes) は「他に探すのではなく、自身に始原から存在している」と説かれる。「自分自身の明知 (rang gi rig pa) に力を獲得したとき、輪廻を彷徨うという恐怖がない」と説く：

王子を王位につけて、灌頂するように、智の力の明知が輝く。法性・母－息子と不分離－は空と明瞭の止むことなく、自ずから〔自然に〕生起し、自からの〔中〕に住する法界体性智 (chos kyi dbyings kyi ye shes)。明瞭で障蓋なき大円鏡智 (me long lta bu'i ye shes)。平等・偏向なく集まる平等性智 (mnyam pa nyid kyi ye shes)。明瞭な道が混ざり合っている妙観察智 (so sor rtogs pa'i ye shes)。他に探すのではなく、自身に始原から存在している成所作智 (bya ba grub pa'i ye shes)。五智が自らの中で顕現するので、王子がそこで放浪する恐怖がないという力を得るように、自分自身の明知 (rang gi rig pa) に力を獲得したとき、輪廻を彷徨うという恐怖がない。<sup>66</sup>

六煩惱が自解脱し、六身が顕現し、六道輪廻から解脱すると説かれる：

王が、大王となって、臣民の運転手・指導者 (kha lo sgyur ba) のように、法性が自現 (rang shar) し、自解脱する明知によって、輪廻の悲しみから解脱するための主権者となる。瞋は自身の場所で解脱し、法身が顕現し、地獄は自らの地で解脱する。吝嗇は、自身の場所で解脱し、受用身が顕現し、餓鬼が自らの地で解脱する。痴は自らの地で解脱し、變化身が顕現し、畜生が自らの地で解脱する。貪欲が自らの地で解脱し、自性身が顕現し、人が自らの地で解脱する。怒りと妬みが自らの地で解脱し、阿毘菩提身が顕現し、阿修羅が自らの地で解脱する。傲慢は自らの地で解脱し、金剛身が顕現し、天が自らの地で解脱する。母・大遍満から、息子・明知の止むことなき力によって、六身と六智として顕現する。六衆生が自身の地で解脱し、法性・母親が息子・シンボルと結合している。<sup>67</sup>

上記の内容を以下の表に示す。

六煩惱解脱・六身顕現・六道解脱の対応関係

六煩惱解脱	六身顕現	六道解脱
瞋	法身	地獄
吝嗇	受用身	餓鬼
痴	變化身	畜生
貪欲	自性身	人
怒りと妬み	阿毘菩提身	阿修羅
傲慢	金剛身	天

(2)「生死の中有」では、ラマの口授の重要性が説かれている。大悲心者の意図を有するラマと、良い分け前を持つ弟子との間でなされる生起次第と究竟次第を経て身口意の三業を浄化する。この記述は、「観自在菩薩の灌頂儀礼」<sup>68</sup>における経文に内容的に類似している。明知の力 (rig pa'i rtsal) が浄化されるとき、現象世界は心だと知ることができる。心は空と説く。空は自顕現・自解脱する：

第二に、生死の中有は、ハゲタカの子供を母親が養うように、師匠の口伝によって、堅固に習慣づけるべきである。例えば、ハゲタカの子供を母親が育てるとき、最初に、卵を温める。次に、子供が生まれて、血肉などによって、次第に育てる。最後に、羽が大きくなり、母親から外に行ってしまう。同様に、最初、ラマ-大悲心者の意図を持っている-が、良い分を持った弟子たちに、ガルーダ、あるいはハゲタカが卵を育てるように、大悲心者の生起次第と究竟次第が、身口意の三〔業〕の通常の執着を反転させる。ハゲタカの子供が、足と骨がによって育つように、五煩惱と分別-その微細なものと粗いもの一切-が自ずから顕現し、自解脱的に、明知の力を浄化する。ハゲタカの子供が母親の外に飛び立つように、明知力が浄化されることによって、現象世界は心と認知し、心は空だと認知する。空は、自ずから顕現し、自解脱すると認知することによって、外と内の幻聴は自らの地で解脱する。内の五毒・分別は自ずから顕現し、自解脱すると認知することによって、六道衆生に再生する因と条件が尽きて、輪廻の崖から落ちない。<sup>69</sup>

(3) 「前後の認知の中有」(shes pa snga phyii bar do) では、「分別が智として明瞭になる (gsal btab)。過去の認知に陥らず、後の時の認知に陥らない。現在の認知が顕現し、「これ」を把握する。」と説かれている。「瞑想期間に修習の必要がない」。「河川流のヨーガ」とも呼ばれる：

第三に、前後の認知の中有は、暗闇に燈明が灯っているようであるということについて。分別が智として明瞭になる (gsal btab)。過去の認知に陥らず、後の時の認知に陥らない。現在の認知が顕現し、「これ」を把握する。例えば、暗闇に燈明を灯して暗闇を断ち切り、外観が明瞭になるのに似ている。明知は明瞭 (gsal btab) である。つまり、明知は自生・自明瞭・自顕現と知ることによって、分別は自生に顕現し、自解脱することによって、自明瞭・智として現れる。分別は途切れることないので、智に途切れることはない。分別は自顕現し自解脱するので、法性は途切れることがない。そのような分別を法性として把握するだけで、瞑想の期間に、修習は必要ない。自顕現・自解脱・法性の内に修習するので、一刹那も途切れることないので、「河川流のヨーガ」(chu bo rgyun gyi rnal 'byor) と呼ばれる。<sup>70</sup>

(4) 「睡眠・夢の中有」(rmi lam gyi bar do) は「身体は夢を見ない。語も夢見ない。心だけが誤って夢をみている<sup>71</sup>」と説く。

(5) 「臨終の中有」('chi kha ma'i bar do) において、「先の生死の中有で、正しい師匠から口授を得て、自分の明知 (rang gi rig pa) を大悲心者の御心・智・明瞭・空と認知する<sup>72</sup>」。「実践するとき、煩惱と分別一切が自解脱して、阿頼耶 (kun gzhi) [における] 業と業の成熟が自らの地で清浄となる<sup>73</sup>」と説かれている。「輪廻は本来清浄 (ka dag) であると悟得することによって、輪廻に絶望しない。自心は大悲心者の意図を持っているので、衆生利益に喜びを生ずる<sup>74</sup>」と説かれる。機根が上品の者 (dbang po rab) は法性－空と明瞭－の法身仏となり、中有がなく解脱する<sup>75</sup>。

(6) 「生存 (輪廻再生へ) の中有」(srid pa'i bar do) は、死後から最長で49日間続く。その間、7日毎に、7段階に区分されて移行していく。

【第1週】死後7日間は、睡眠状態である。このとき、は明知は失われている。この間に、「大悲心者の大瑜伽行者」の上品は、法身として解脱する：

7日間だけ、明知 (意識) を失って、睡眠状態 (bag la zha ba) の状態で留まる。そのときに、法身の現れが現れる。大悲者の瑜伽行者は、非常に明瞭かつ空の法性の堅固な意味によって、そのときに法身として解脱し、中有に現象が現れない<sup>76</sup>。

【第2週】7日経つと、受用身が顕現する。失われていた明知が目覚める。体は夢の体のようなものである。現象一切は、大悲心者の浄土して現れる。一切の声が大悲心者の声として現れる。「大悲心者の大瑜伽行者」の中品は、この間に解脱する：

それから、7日後に、受用身の現れが現れる。明知を失う (意識がなくなる rig pa rgy) が覚めて、「以前のときの肉色だ」と考える。体はないが、体の影 (grib ma) もない。夢の体と似ている。体がないので、五根 (dbang po lnga) がないが、心の体 (sems kyi lus) には、六根六識の現れがある。は肉血による肉体ではない。意の体 (yid kyi lus) は三界一切に障碍なく現れる。そのときに、以前に見たことのない境界を見て、清浄な仏国土を見る。語りを味わったことのない法を語って、



一般的な法と自身の特徴の法を語ることのできる現象が現れる。大悲心者の瑜伽行者の中品はそこで解脱する。現象が、身の方法において堅固さを獲得して、現象の一切が、大悲心者の浄土と身体として現れる。聞こえる声は、語（gsung）の方法において堅固さを獲得して、一切の声は、「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」という六字真言の声として現れる。念相と分別は御心の方法に堅固さを獲得して、五毒は五智として現れる。瞋は、大円鏡〔智〕・明瞭で、障蓋なく現れる。痴は法界体性智・明瞭・道・止むことなきものとして現れる。傲慢は、平等性智・法性・平等・偏向なきものとして現れる。貪欲は、妙観察智・明瞭で、混ざらないものとして現れる。嫉妬心は、成所作智・衆生利益の悲心が途切れることなく現れる。大悲心者の身は莊嚴方法で、語は途切れることなく自生起し、御心は空と悲心が不分離で途切れることない。〔そのような〕受用身として解脱する。<sup>77</sup>

【第3週】 死後14日から21日目までの七日間に化身が現れる。明知が明瞭になってくる。死者は、死んでいることに未だ気づいていない。家族や友人が号泣しているのを見る。話しかけても、誰も気づかない。21日目に、自分自身の死を認知し、自分の体が腐敗していくのを見て、苦悩するが、大悲心者の修習を思い出すと、そこで、化身として解脱する：

死後14日後から21日までの7日間に、化身の姿（snang ba）が現れる。明知が非常に明瞭になるので、死んでいないときより、7〔日経って、〕吉祥が来る。「わたしは、死んでないのに、両親と善知識の友達たちが号泣している」のを見る。母親が泣いているので、触ったり、質問したりしても、聞いてくれないなどのことが起こる。両親の境界・家・子供・家財の心について一切が来る。<sup>78</sup>

【第4週】 死後21日から28日まで、恐怖に戦慄する。種々の声に慄く。そのとき、「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」という六字真言を思い出すと、それらの声が仏語となる：

〔死後〕21日目から〔自分自身が〕死んでいることを認知すると、明知（rig pa）が境界（yul）に入ることが、身体が腐敗するのを見たり、体を得ないで、無量の

苦しみに陥る。そのとき、守護尊大悲心者を修習したことを思い出すと、〔その時  
が〕、化身として解脱する時である。<sup>79</sup>

【第5週】 死後28日から35日まで、五色の光が現れて、「解脱しない顕現」(mi  
thar bai snang ba) が生じるなどが説かれている：

死後28日から35日まで、五つの光が現れて、光に包まれて、解脱しない (mi thar  
ba) 姿が起こる。念相・分別は、御心の方法・自現・自解脱の意味を思い出すこと  
によって、道を進む。<sup>80</sup>

【第6週】 死後36日から42日までの間に五色に六道輪廻が現れ、その選択を行  
う。進む道について授記される。下品の者は、この期間に解脱する：

死後36日から42日まで、五色に六道が現れる。白い道に行くと、天の姿 (snang ba)  
が現れる。緑の道を行くと、阿修羅の姿が現れる。黄色の道に行くと、人の姿が、  
黒に行くと、畜生の姿が現れる。thal skya の道に行くと、餓鬼の姿が現れる。赤黒  
い〔道〕に行くと、地獄の姿が現れる。そのとき、ラマ・守護尊・ダーカに請願し  
たことを思い出すことが重要である。それを思い出したとき、授記を説示する。「あ  
なたの守護尊は大悲心者です。精髓は、このオーン・マ・ニ・ペ・メ・フーンで  
す。白い道に行きなさい。あなたの転生地はこれです。体はこれです。法はこれ  
です。」などの授記が示される。そのとき、同時に再生する天は善、同時に再生する  
混合は不善を超える姿が現れて、ラマ・守護尊が勝利をつかんで、高い地位の道  
を示す。機根が下品の者は、そこで解脱して、来世に法と出会って、業の散り散りを  
得る。<sup>81</sup>

進む道の色と転生先の六衆生の関係を以下の表にまとめた。

道の色	転生先の六衆生
白	天
緑	阿修羅
黄	人
黒	畜生
(thar skya)	餓鬼
赤黒	地獄

【第7週】最後に、死後43日目から49日目にかけて身体を取り、子宮に入り、転生していく。

死後43日から49日まで、体をとって、姿が現れる。どこに再生しても、体がそれであると考えて、業によって、急き立てられて、子宮に行く。それらが、中有に49日住する力である。それほど長さの間住すると示すことが、中有において、守護尊と心髄（オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン）を思い出して、そこで解脱する<sup>82</sup>。

## 2. ポア（遷移）

### 2.1 「六字真言成就法」におけるポアの内容

「六字真言成就法」章における「密教の六肝要」の第2枝分のポアは、大悲心者の身語意に遷移することを説く。行者が大悲心者と一体となり、大悲心者と不二合一する。臨終時には法身・受用身・変化身となる。六肝要の一つ一つが6つの支分でさらに詳述される。そのうちの（1）外的には臨終時に大悲心者へ遷移する。（2）内的には、仏語（gsung）に遷移する。（3）秘密には、仏のお心（thugs）に遷移する。（4）真意には、臨終時に法身に遷移する。（5）徴は、中有を修習しておくことによって、受用身に遷移する。（6）特徴は、「中有を認知すると、来世に良い果を得やすい。一切衆生利益のために、大悲心の変化身に遷移する」（bar do ngos zin na phyi ma las kyi 'phro 'thud sla ste）と説かれる：

オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン。（1）外的な遷移は、自分が死ぬときが来たと

き、大悲心者のお身体 (sku) に遷移する。自分の頭上に大悲心者を観想せよ。明知 (rig pa) が集まり、息風が猷じ、ブラフマーの穴に引かれる。大悲心者の胸に入ったとき、自分と不二だと観想する。(2) 内的な遷移は、語 (gsung) に遷移すべきである。[眼] 前の虚空で、「オン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」という六字真言を明瞭に修習する。息風と明知が集まり、口から吐く。字 (yi ge) に満ちた認知力 (shes pa) が確立し、明瞭と空 (gsal stong) として消えていく。(3) 秘密の遷移は、お心 (thugs) に遷移する。明知と風 (息) が集まり、胸 (snying ka) から遷移する。所依のない明知に満たして放て。無戲論 (spros bral) に消えていく。(4) 真意の遷移は、臨終時に分別 (rnam shes) が光明 ('od gsal) に融解し、光明だと認知すれば、法身に遷移する。(5) 徴の遷移は、中有 (bar do) に、前段階で修習し習慣づけることによって、大悲心者のお身体を念想するようになる。そのように修習すれば、受用身に遷移する。(6) 特徴の遷移は、中有を認知すれば、来世に良い業の果報が得やすい。(7) 真意の遷移は、一切衆生利益のために、大悲心者の化身に遷移する。<sup>83</sup>

## 2.2 「口授巻」における「変化身王のポア」節

「口授巻」における「変化身王の遷移」章において、身体機能に現れる突然死の四つの兆候が説明され、それらの兆候が現れたときに、遷移すると説かれる：

大悲心者の瑜伽によって、もし突然死の兆候が起こったなら、遷移をすべきである。死の兆候にはたくさんあるが、突然死には四つの兆候がある。(1) 「視覚を明瞭にする光が衰退すること」と言われる [兆候]。つまり、目がしょぼしょぼすることによって、光の巡りがなくなり、死ぬ。(2) 「聴覚の機根・声が衰退すること」と言われる。つまり、両耳が塞がれて、両てのひらで押して、うなり声が無くなったときに死ぬ。(3) 「天と大地の柱と梁を切断すること」と言われる。つまり、手を虚空に晒したとき、拳から遮られると死ぬ。(4) 「悪魔がまもなく立ち上がる」と言われる。つまり、両手の親指を繋いで、挙げたとき、他 [の指] が震えて薬指が上ると、死ぬ。ほんの少しでも縁によって反転するので、病気でなくても調べること。<sup>84</sup>

三つの機根 (上中下品) に基づいて、六つのポアがあると説かれている：

ポアには六つある。(1) 機根が高い者は、自性による遷移、(2) 機根が中位の者は、(3) 道によるポア、(4) 身印へのポア、(5) 語の真言へのポア、御心の滴・法身へのポア、(白い「フリー (hrih)」という種子へのポア、(6) 機根が下品の者は、獅子の遊戯の手印を示す方便で遷移する。<sup>85</sup>

機根とポアの種別を以下の表にまとめた。

機根	ポアの方法
上品	自性
中品	・道 ・身印 ・語の真言 ・お心の滴・法身
下品	獅子の遊戯印

### (1) 上品の機根の者のポア

上品の者の解説の中で、「生死のない心の本性には遷移も不遷移もない」と言われる。「大悲心者を修習する瑜伽行者は心の本性の中に消える」と言われる。高品の者の譬えは割れたツボである。「たとえば、壺の中の虚空は小さいが、壺が壊れたとき、虚空は大きくなるように。<sup>86</sup>心の本性は自解脱・大智 (jñāna, ye shes) として完成する。それが、機根が高い者の自性による遷移である。」と言われる：

さて、上品の機根の者の自性のポワについて。生死なき心の本性 (sems nyid) には、遷移も無遷移もない。心 (sems) には初めに因・条件による生起がない。中間に、どこにも成立しない。最後はどこにも行かない。生と妨害なく持続して住するので、生と死の名前もない。輪廻は心だと知り、心は空・法身である (sems stong pa chos kyi sku yin) ので、輪廻と涅槃以外に法身も事物として成立しない。阿鼻地獄も自心 (rang gi sems) は金剛身と地獄に等しい。明知は誤謬なく、法界に消えるので、五毒は自発的に自解脱する。それゆえ、木が尽きた火が〔燃える〕因と条件から離れるように、大悲心を修習する瑜伽行者は、膨張している蘊を体から捨てて、心の本性の中に消える。たとえば、壺の中の虚空は小さいが、壺が壊れたと

き、虚空は大きくなるように。心の本性は自解脱・大智として完成する。それが、機根が上品者の自性によるポワである。<sup>87</sup>

## (2) 中品の機根の者のポア

中品の機根の者には四種のポアが示されている。「虹のような身体」(ja' tshon lta bu'i sku) と身語心のポアが一つずつ説かれる。

(2.1) 中品の第一は、虹の身体を得て、大悲心者の浄土で成仏する者である：

中位の機根者が、そのように(上述のように)知らないなら、ポアに四つある。第一に、大悲心者の身に遷移すること。自分が死ぬと知ったとき、前行〔で〕ラマと三宝に供養を献ずる。六道に布施をする。資材と備蓄などを作りなさい。死の際に、輝かずに、喜びを起こしなさい。最初だけ、体を直立させて、〔眼〕前の虚空に大悲心者-光の御身体として-を招来し、強烈な信楽・崇拜をなせ。離れず、集中して共にいると誓いなさい。明知(rig pa)を臍から息風と一緒に吸い込んで集めよ。大悲心者の胸に投射する。肉と血のこの体を投げ捨てて、虹のような体を得て、大悲心者の浄土で仏となる。<sup>88</sup>

(2.2) 中品の第二は、語のポアが説かれる。「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」という白い六字真言を観想し、その中に持続的に住することが語の遷移であると説かれている：

第二。真言輪に遷移すること。六字真言の輪を虚空に起こす。黄色い輪の六つの車軸の中心に、白い「フリー(hrih)」が光っている。六車軸に「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」という白い六字真言を観想する。自分の蘊を食物のように観想し、頭のブラフマーの穴を開き、虹のような光線に明知が取り巻いて、ブラフマーの穴から出る。六字真言の輪に融解する。語・六字真言の中に持続的に住することが、語における遷移の秘伝(man ngag)である。<sup>89</sup>

(2.3) 中品の第三はお心へのポアが説かれる：

〔中品の〕第三は、御心に遷化する。一つの豆粒ほどの赤い滴に自分の明知がそれであって、内外の息風と滴から離れない。戯論から離れた滴は、それから変化せず、その中に自性 (rang bzhin) によって、光明が止まない。滴の本性 (ngo bo) は変化しない。端や角がない法身である。それが、心へのポアの秘伝である。<sup>90</sup>

(2.4) 中品の第四は、真言へのポアが説かれる。「真言 (yig 'bru) への遷移は三十三天の住処あるいは大悲心者の胸に運ばれる」と説かれている：

第四。真言における遷移。風と慧が一つに結合して、白い「フリー hriḥ」という真言に慧を確立する。中央脈管を開けて、下方の息風 (プラーナ prāṇa) を強く縛って、吸い込んだ風によって、慧が上方で点火する。頭上〔で〕大楽の輪に白い hriḥ の相 (すがた) で抽出する。三十三天の住処あるいは大悲者の胸に運ばれる。<sup>91</sup>

### (3) 下品の機根の者のポア

下品の機根の者は頭上のブラフマーの門から遷移する。「六道に住さず、一刹那に仏に行く」と解説されている：

機根が下品の者のポワは、獅子遊戯の手印の力の門を遮ることである。二つの人差指で両耳を折り畳み、覆う。両親指で遮る。吐く息の風 (phen pa'i rlung) が慧を持ち上げる。頭頂のブラフマーの穴が開いて、明知が所依なく満ちることによって、遷移する。六道の住処に再生せず仏に一刹那に行く。それが、機根が下品の者の遷移である。<sup>92</sup>

最後に、ポアにおける風息 (rlung) の実践法が説かれている：

一般的に、風息 (ルン rlung) を浄化することが重要である。風息に、智 (ye shes) の風息と、業 (las) の風息の二つがある。智の風息は左の鼻腔から、行 (rgyu) は一日に風息を二万一千行く。智の風息と業の風息を半分半分に行く。智の風息は一万を一セットと五百、業の風息は一万を一セットと五百行く。二つの鼻腔から動

くとき、中央脈管から動くので、法性の風息である。それは、風息が遷移 ('pho ba) するとき、一か二、三、四、五刹那動く。そのときに、法性を認知し、明瞭で清浄な明知に住する。<sup>93</sup>

風息の実践は三つの統御法によって示されている：

風息の統御に三つ。(1) 風息を弓のように曲げる。つまり、上方に風息を均等な力で (thub thang du) 押す。(2) 風息を矢のように投げ飛ばす。つまり、外側に均等な力で (thub thang du) 投げ飛ばす。(3) 風息を壺のように、丸める。つまり、中間と上方に風息を、下方に風息を集めて、均等な力で (thub thang du) 掴む。(4) 風息を輪のように転ずる。つまり、自分自身を大悲心者として修習する内に、空 (stong pa) に消える。右脈管 (rasanā, rtsa ro ma)・左脈管 (lalanā, brkyang ma)・中央脈管 (avadhūti) の三つを、苦しみを放つように、頂点を上方に目は秘かに突き抜ける。下方の先端の水 [に] 指を突き刺す (mar rtse chu sor zug)。中央脈管の中から持ち上げて、風息を浄化する。下の先端の徴に突き刺すとき、風息が下方に引かれるので、中央脈管に統御する。風息を持ち上げるときに、中央脈管の中から上方に持ち上げて、風息を浄化する。風息が浄化されないときは、遷移はできないので、風息を浄化することは肝心である。<sup>94</sup>

### 3. トンジュク

#### (3.1) 「成就巻」「六字真言成就法積タントラ」におけるトンジュク

「六字真言成就法」章が一旦完結した後、「六字真言成就法」の結部に列挙された項目の解説(仮に「積タントラ」と呼ぶ)が後続することは先に述べた。その「積タントラ」に「ナーローの六法」の「トンジュク」が六つの項目から説明される：

オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン。トンジュクについて。(1) 外的なトンジュクは、「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」と唱えると、外的な現象のどんな領域に



も明知が確立することによって、現象と明知が不分離になる。(2) 内的なトンジユクは分別と苦の間隙なく再生すると了解すれば、自ずから輝き、自解脱して、分別と空が不分離になる。(3) 秘密のトンジユクについて。老いた体を放置して、若い体に入る。(4) 真意のトンジユクは、[行者の] 体が大悲心者のお身体に入る。語の「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」と[唱える]が大悲心者の語に入る。意-悲心の精髓を持った空性-が、大悲心の御心に入る。(5の徴の記載はない。<sup>95</sup>) (6) 特徴のトンジユクは、六字真言によって、六道の再生を断じて、六身六智の中に入ることである。<sup>96</sup>

### (3.2) 「経巻」「レヌ王本生譚」章におけるトンジユク

トンジユクは、「経巻」に含まれるソツェンガンボ王の本生譚（ジャータカ）の一話「レヌ王子本生譚」に現れる。トンジユクを実践した王子の物語の中で、四無量心の一つである悲の無量心（snying rje tshad med pa）による畜生の救済が説かれている。以下に梗概を記す。

#### 【梗概】

ある王に三人の息子がいるが、末息子レヌ王子には王国についての何の権利も相続もなかったので、牛飼いとなった。他国にはバラモンの牛飼いがおり、友人になり、意気投合して瑜伽行者からトンジユクの教えを伝授され、練習する。ここでのトンジユクは、自身の明知を屍体へ注入することによる、屍体の蘇生法である。その間、自身の身体を護衛してもらう必要がある。そのうち、レヌ王子の年上の兄弟たちが相次いで亡くなり、王位継承権がレヌ王子に来る。王子レヌはバラモンの牛飼いに事の次第を話し、トンジユクを使って、バラモンの牛飼いが王子レヌの身代わりに王国を継ぐことを構想する。象の死骸に王子レヌの明知を注入している間、バラモンは約束を破って、レヌ王子の身体を護衛せず、野獣に王子レヌの屍体を投げやってしまう。入れ替わるための人身を失った王子レヌは畜生の身のまま、あちこちで無量の悲心（snying rje tshad med pa）を実践して、鳥獣の衆生救済を行う。やがて、オウムとなったレヌ王子は、かつての友人であり、今では、レヌ王子の代わりに王となったバラモンの牛飼いと、その妃の城の庭でオウム阿闍梨として彼らの説法師となる。オウム阿闍梨は、妃に事のいきさ

つを説明し、自身の身体を取り戻す策を実行する。オウム阿闍梨が死んだと言って、妃が嘆き悲しむのを見て、バラモンの王は、妃を慰めるためにトンジユクでオウム阿闍梨を甦らそうとする。バラモンの王が自身の明知を注入してオウムの身体に入ったとき、レヌ王子はオウムから抜いた明知をバラモンの王の身体に注入して、バラモンの王の身体を奪う。バラモンの王は騙されたことに気付き、二人は激しく議論する。再び人身を得たレヌ王子は妃とともに、王国の宝物館を開けて、仏と眷属を尊び、黄金の仏像を建立する。<sup>97</sup>

#### 4. ギユル (幻身)

幻身 (sgyu lus) において心身についての教えが見られる。「心は明瞭で止むことなく、大悲心者の意図と離れないこと」、「心の本性は作られることなく、仏の知識 (rgyus) が一切に遍満して、自ずから生じ、一切に遍充する。」と説かれている。身体については、「身体は、恒常の幻術と知って、執着なく、身体に依拠して仏道することを幻身と呼ぶ」と説かれている：

オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン。幻身について。(1) 外的な幻身は、大悲心者を瞑想する者が、外観は自性なく、鏡の影像のように明瞭になることである。(2) 内的な幻身は、心が明瞭で止むことなく、大悲心者のお考えと離れないことである。(3) 秘密の幻身は、一切の五毒と分別が了知されずに、自ずから生じて、執着なく放たれる。(4) 真意の幻身は、心の本性は造作なく、仏の知識 (rgyus) 一切に遍満して、自ずから生じ、一切に遍充する。(5) 徴の幻身は、身体に楽が遍充することによって、貪欲が境界から生まれる。境界で貪欲を行ずるので、楽を認知して、貪欲が道に取り込まれる。(6) 特徴の幻身は、身体は恒常の幻術と知って、執着なく、身体に依拠して仏道することを幻身と呼ぶ。<sup>98</sup>

#### 5. ウセル

光明 ('od gsal) について、外界の現象に本質はないので、外界に執着がないこ

と、心の本性 (sems nyid) は明瞭で、止むことなく、執着がないと説明されている。明知が微弱になると、光明が顕現し、法身仏となると説かれている：

オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン。光明について。(1) 外の光明は、外界の現象一切は見えるが、本質はないので、現象に執着は全くない。(2) 内の光明は、内の心の本性 (sems nyid) は明瞭で、止むことなく、執着なきものとして住している。(3) 秘密の光明は、苦と分別が止むことなく、自ずから現れ、執着なく住する。(4) 真義の光明は、法性が捏造なく、自生なものとして明瞭で、生も止もなきものとして住する。(5) 徴の光明は、心の本性 (sems nyid) は明瞭で止むことのないものとして経験する。心相続に堅固な習慣付けを得ることによって、これを認知する。(6) 特徴の光明は、外的な息は絶えているが、内的に息は絶えていない。明知が失われて、光明が顕現し、それを認知する。先に浄化された光明と、失われた明知の光明の二つが、光と光が混ざるように、法身仏となる<sup>99</sup>。

## 6. トウンモ (チャンダリーの火)

内熱 (gtum mo) は、身体が温もり、楽になり、衣食が必要ない状態になり、心は楽で明瞭となると説明されている：

トウンモについて。(1) 外のトウンモは、頭上に師匠を観想せよ。本尊のパンツァリカ [と呼ばれる] 衣服<sup>100</sup>に上方に熱を得て着ていると観想する。(2) 内のトウンモは、臍の隠れたところ (lkog) に、勝義のトウンモである熱の本性が [うさぎの] 糞<sup>101</sup>ほど住している。下方の風息を引いて、風息がチャンダリーの火を隠して、火の熱さを感じる時、内部は熱が続いていると温もると観想する。(3) 秘密のトウンモは、熱が生ずるとき、楽に満たされて、楽に<sup>102</sup>住すると観想する。(4) 真義のトウンモは、法性-自明瞭・無分別-の状態に自然 (hil dril)<sup>103</sup>に置かれる<sup>104</sup>。(5) 徴のトウンモは、身体に熱が生まれるので、脈管が温まる。脈管が温まると、滴が温まる。滴が温まると、身体に楽が生ずる。楽が生ずると、明知が楽・明瞭・無分別の内に住する。楽から受用身が、明瞭から変化身が、無分別から法身が現れる。(6)

特徴のトゥンモは、身体に熱が生ずるので、服が必要なり。無分別を食物として食<sup>105</sup>するので、食物が要らない。心は楽と明瞭に住するので、修習が必要ない<sup>106</sup>。

## まとめ

本稿では、『マニ・カンブン』における「ナーローの六法」を構成する各枝分の内容と特徴について検証した。先行研究が指摘する「ナーローの六法」の各枝分の独立性は、『マニ・カンブン』でも確認できる。「ナーローの六法」を構成する枝分は『マニ・カンブン』の「経巻」「成就巻」「口授巻」において教示されている。「成就巻」における「六字真言成就法」章においては「中有」が、その本行中で説かれ、「六字真言成就法大註釈」において解説されている。残り五枝分は「六字真言成就法」に後続する解説部分で釈義されている。本行部と後続する解説部の関係は根本タントラと釈タントラの関係に相応するのではないかと仮説する。「中有」と「遷移」はさらに、「口授巻」で説示されている。「口授巻」における「中有」章は、「成就巻」で説かれる中有に基づいてさらにそれを拡大講釈していると考えられる。「経巻」では「トンジュク」が、ソンツェンガンポ王の本生譚に取り入れられている。『マニ・カンブン』の異なる場所に、枝分が独立的に現れても、教義的には緊密に連繫していることが確認できる。「ソンツェンガンポ王の本生譚」における「トンジュク」と「六字真言成就法」を構成する「トンジュク」との教義的な連関は、悲心の実践である。「ソンツェンガンポ王の本生譚」では、四無量心の「無量の悲」から、畜生の衆生が助けられる。「六字真言成就法」の一支部としての「トンジュク」においては、行者の身語意が大悲心者の身語心に入る。「六字真言成就法」における「遷移」においても大悲心者の身語意に遷移する。大悲心者と一体となり、大悲心者と不二合一する。「六字真言成就法」では、死後、法身・受用身・変化身となる。「口授巻」に説かれる「遷移」においても、大悲心者の身語心に遷移することがさらに詳細に説かれている。語は六字真言である。「口授巻」では、上中下品の三品に機根を分け、「心の本性」(sems nyid)について説く。心の本性には生死がなく、自解脱・大智であると説かれている。中品の機根の者は、虹の体を得て、浄土で成仏する。

『マニ・カンブン』における「ナーローの六法」に共通して現れ、重要な働きと役割を担うのが「明知」(rig pa)である。「明知」は、遷移、トンジュク、中有における輪廻転生の主体あるいは生命体である。「明知」は失われたり、戻ったりする。明知が失われている状態が「死」の状態である。明知が失われると、「光明」が顕現する。「自性に住する中有」において、明知力は六煩惱の自解脱、六身六智の顕現、六道輪廻の解脱をもたらす。明知力は「観自在菩薩の灌頂儀礼」においては、灌頂の一支分を構成し、明知力灌頂によって、六煩惱が六智となることと一致している<sup>107</sup>。このことは、『マニ・カンブン』内の他の章との緊密な関係を証明する。

本稿は、「六字真言成就法」の根本タントラにおいては、行者の心の自心仏と、行者の身体の自身仏が説かれ、即身成仏の思想が見られることを前稿で指摘しているが、「六字真言成就法」に見られる自心仏と自身仏の教えは、「ナーローの六法」においても明確である。「マニ・カンブン」に説かれる「観自在菩薩の灌頂儀礼」(北村1982, 2021; 楨殿2021c)や本研究で取り上げた「ナーローの六法」においても観想が中心であるが、「ナーローの六法」では、語句的には、身体への言及が増えているのが観察される。「幻身」で「身体に依拠すること」が明確に述べられていることから、身体を使った実践修行が意図されている。「ナーローの六法」においては、行者の身語意は大悲心者の身語心と一致し、行者がそのまま大悲心者であることは「自身は大悲者」(rang thug rje chen po)という句から確認される。その句は、心も身も含みむと考えられ、行者そのひとがそのままに大悲心者であることを語句で示していると考えられる。「六字真言成就法」における身語心と六字真言の関係は、六字真言を心で念誦するときにおける身体の中央脈管にあたり、法性が顕現すると解説されていることに具体的に示されている。「ナーローの六法」を含む「六字真言成就法」の特徴として、心にのみ特化せず、心身全体を使った実践修行が展開されていると言えるのではないだろうか。そこでは、行者そのひとがそのまま即大悲心観自在菩薩として立ち現れる。『マニ・カンブン』における「ナーローの六法」の観察を基にして、『秘密集会』のが、『マニ・カンブン』に反映されている可能性を検証していく必要があるであろう。

心と仏性と空性の関係については、一切の現象は心であり、六道輪廻は心であ

り、心は空なので、苦しみがないと説かれていた。我々が生きているときの中有において、心が仏として導入されるのを確認した。仏は、あるがままのあり方を認知し、自身の本性を知ることで仏となる。あるがままのあり方と自身の本性に差別がないことは、「衆生の心と仏の心に差別なく、あるがままのあり方において一つである」と説かれていたことから確認できる。バラモン教の説く梵我一如にも通ずるのではないだろうか。母子を例として、母親は「大悲心者の心」であり、法性であり、それが自分の中にあると説かれていた。仏性常住に基づく如来蔵思想を説く例と見ることができよう。子は明知の例であるが、輪廻をさまよう主体である。母親は子を認知するが、子は認知しないため、輪廻する。心の本性は空と明瞭であり、そのような心の本性から明知が顕現し、その中にまた融解すると説かれていた。明知が輪廻の主体であることがここでも確認できる。

『マニ・カンブン』における「六字真言成就法」は生起次第と究竟次第を内包し、五部仏による灌頂を経て、阿弥陀仏を現前に顕現する<sup>108</sup>。『マニ・カンブン』における「六字真言成就法」の教義的な方向が、松長有慶氏が述べる、『秘密集会』の主題とも相応しているように思える。<sup>109</sup>

『マニ・カンブン』では、「観自在菩薩の灌頂儀礼」においては自心仏の教えが際立っているが、「ナーローの六法」を含む「六字真言成就法」では、心と身体の両者が共に仏と同定される。そこでは、行者そのものの存在が仏として立ち現れてくる。『大日経』から『秘密集会』の展開の中で、自心から、自身への展開がなされ、その展開が集約的に『マニ・カンブン』中に反映されている可能性があるとは言えないだろうか。この点について、さらに内容を吟味していきたい。今後の調査における幾つかの課題について指摘しておく。

第一に、ゲルク派の実践に『マニ・カンブン』の「ナーローの六法」は伝承されているのか。『マニ・カンブン』はゲルク派が所持する聖典であるため、『マニ・カンブン』に説示された「ナーローの六法」は、ゲルク派における「ナーローの六法」に影響を与えたのだろうか。ゲルク派の祖師ツォンカパに『マニ・カンブン』の「ナーローの六法」が伝授され、それに基づいて、ツォンカパが『三信具足』を書いたとは考えられないであろうか。<sup>110</sup>

第二に、中有については、川崎氏が指摘する、ニンマ派の系譜による中有とは、

本稿で取り上げた『マニ・カンブン』における「中有」であるのか、異なるものであるのか。「六字真言成就法」における葬送儀礼と『チベットの死者の書』との関係はどうであろうか。

第三に、如来蔵思想史における『マニ・カンブン』の「ナーローの六法」の意義は何か。『マニ・カンブン』の「ナーローの六法」では、母なる大遍満のあるがままのあり方が自身にある」(ma khyab gdal chen mo'i gnas lugs rang la yod pa) こと、ゾクチェンの教えである「始原から清浄」(ka dag) という記述が見られ、「虹の身体」についての記述も確認した。「ナーローの六法」の伝承者の系譜と観自在菩薩成就法の伝承者には他空派が含まれるため、この点から如来蔵思想史の再構築を行いたい。筆者は観自在菩薩成就法の実践修行者は、『宝性論』の瞑想学派を継承した者であったと仮説する。

第四に、『マニ・カンブン』内部の教義の連関性についてさらに研究する必要がある。『マニ・カンブン』の教義は、多岐に渡り、一見種々雑多に見えるが、内的に相互に関連し、緊密に結びついていることが観察される。そのような例は、たとえば本稿で取り上げた中有に示されている。「成就巻」「六字真言成就法」を中核として、それに例示や解説を加えることによって、発展的に増広されていったと考えると、「成就巻」の成立は「口授巻」(12世紀)より遡ることが推定できる。「六字真言成就法」章における五仏による灌頂は、「口授巻」における「観自在菩薩の灌頂儀礼」においてさらに詳細に展開されているとも考えられる。このようなことも踏まえて、『マニ・カンブン』の成立の過程も含めて、今後さらに内的な結びつき、相互の関連について研究を進める必要がある。『マニ・カンブン』が教義的に精密に構築されてきたことをうかがわせる。さらに調査していきたい。

#### 参考文献

##### 第1次文献

*Mani bka' 'bum.*

B=Bras spungs edition;

D(デルゲ sDe dge) 版。La Bibliothèque de l'École française d'Extrême-Orient (Paris) 極東フランス学院パリ支部図書館蔵。

S(ブナカ版)=Ma ñi bka' 'bum: A collection of rediscovered teachings focussing upon the tutelary deity Avalokitesvara (Mahākaruṇika). Reproduced from a print from the no longer

extant Spuñs-thañ (Punakha) blocks by Trayang and Jamyang Samten. Vol. I (E) & II (Wam). New Delhi, 1975.

『中觀莊嚴論註』 Śāntaraksita. *Madhyamakalamkaravṛtti*. D 3885, 「甚深なマハームドラーとナーローの六法」 (*Zab lam Phyag chen Chos drug*) = “Zab lam phyag rgya chen po dang nā ro chos drug gi gzhung gces par btus pa nges don rin po che'i mdzod.” In 'Jam mgon Kong sprul blo gros mtha' yas. *gDam ngags mdzod* (『口授藏』). Vol. 7, pp. 10-131. Delhi: Shechen Publications, 1999.

## 第2次文献 (欧文)

Cuevas, Bryan J. 2003. *The Hidden History of the Tibetan Book of the Dead*. Oxford: Oxford University Press,

Ehrhard, Franz-Karl. 2000. *Vividharatnakaraṇḍaka: Festgabe für Adelheid Mette*. Ed. Christine Chojnacki, Jens-Uwe Hartmann and Volker M. Tschannerl, 2000. Swisttal-Odendorf: India et Tibetica Verlag, pp. 199-214.

Ehrhard, Franz-Karl. 2013. “The Royal Print of The Mañi Bka' 'Bum: Its Catalogue and Colophon,” in *Nepalica-Tibetica: Festgabe for Christoph Cüppers*, Band 1, ed. by Franz-Karl Ehrhard & Petra Maurer (Hrsg.). IITB: International Institute for Tibetan and Buddhist Studies GmbH, pp. 143-172.

Evans-Wentz W. Y. 1927. *The Tibetan Book of the Dead*. Reprint: Oxford University Press, 1960.

Germano, David. 2007. “Dying, Death, and Other Opportunities”. In *Religions of Practice in Tibet*. First published in 1997. New Jersey: Princeton University Press, pp. 336-371.

Gyatso, Janet. *A Literary Transmission of the Traditions of Thang-stong rgyal-po: A Study of Visionary Buddhism in Tibet*. Ph.D. Dissertation from University of California, Berkeley. UMI: 8211946, 1981.

H. E. Trizin Tsering Rinpoche. *Mani Kabum: Profecies & Teachings of Great Compassion*. Vol. 1 and 2. 2007, n.p.

Hirshberg, Daniel. “Nyangrel Nyima Wozer.” In *The Reasury of Lives*. In: <https://treasuryoflives.org/biographies/view/Nyangrel-Nyima-Ozer/5999>

Kapstein, Matthew. 1992. “Remarks on the *Mañi bKa'-'bum* and the Cult of Avalokiteśvara in Tibet.” In *Tibetan Buddhism: Reason and Revelation*. Ed. by Steven D. Foodman and Ronald M. Davidson, pp. 79-93, pp.163-169.

Kapstein, Matthew T. 2000. *The Tibetan Assimilation of Buddhism: Conversion, Constestation, and Memory*. Oxford, et. al: Oxford University Press.

Kaptein, Matthew. 2014. *Tibetan Buddhism: A Very Short Introduction*. Oxford.

Lauf, Detlef Ingo 1977. *Secret Doctrines of The Tibetan Books of the Dead*. Boulder: Shambhala Publications.

Macdonald Ariane. 1969. Annuaire 1968/1969. École pratique des Hautes Etudes IV Section. Sciences Historiques et Philologique. Paris: à la Sorbonne.

Makidono 2012. “An Entrance to the Practice Lineage as Exemplified in Kaḥ-thog dGe-rtse Mahāpaṇḍita's Commentary on Sa skya Paṇḍita's Sdom gsum rab dbye.” *Revue d'Etudes*



- Tibétaines 22, pp. 215-242.
- Makidono 2014. "Vestiges of Religious Interaction Embedded in the *Maṇi bka' 'bum*: The Origins and the Development of the Cult of the Bodhisattva Avalokiteśvara." *Indian International Journal of Buddhist Studies* 15, pp. 135-198.
- Makidono, Tomoko. 2016. *dGe-rtse Mahāpaṇḍita's Great Middle Way of Other-Emptiness*. Tokyo: Sankibo Busshorin.
- Makidono, Tomoko. 2018. "The Ornament of the Buddha-Nature: Dge rtse Mahāpaṇḍita's Exposition of the Great Madhyamaka of Other-Emptiness." *The Indian International Journal of Buddhist Studies* 19, pp. 48-77.
- Makidono, Tomoko. 2020. The *Vessantara Jātaka* in the *Maṇi bka' 'bum* and the Fifth Dalai Lama's *'Khrung rabs*. *The Indian International Journal of Buddhist Studies*, 21, pp. 83-114.
- Mei, Ching Hsuan. 2004. "The Early Transmission of 'Pho ba Teachings." *The Tibet Journal*. Winter 2004 vol.XXIX no 4, pp. 27-42.
- Mei, Ching Hsuan. 2009. *The Development of 'Pho ba Liturgy in Medieval Tibet*. Ph.D. Dissertation from University of Bonn.
- Mullin, Glenn H. 1996, 2005. *The Six Yogas of Naropa*. 1996, 2005. Ithacam, New York: Snow Lion Publications.
- Phillips, Bradford L. 2004. *Consummation and Compassion in Medieval Tibet: The Maṇi bka'-'bum chen-mo of Guru Chos-kyi dbang-phyug*. Doctoral Dissertation from University of Virginia, 2004. UMI: 3144622.
- Powers, John. 1995. *Introduction to Tibetan Buddhism*. Ithaca, New York: Snow Lion Publications.
- Sørensen, Per. K. (trans.). 1994. *Tibetan Buddhist Historiography: The Mirror Illuminating the Royal Genealogies: An Annotated Translation of the XIVth Century Tibetan Chronicle: rGyal-rabs gsal-ba'i me-long*. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
- Thurman, Robert A. F. 1994. *The Tibetan Book of the Dead*. New York: Bantam Books.
- Venerable Lama Lodo. 1982. *Bardo Teachings: The Way of Death and Rebirth*. With Foreword by Kalu Rinpoche. Ithaca, New York: Snow Lion Publications.
- Waddell, Waddell L.A. 1894. "The Indian Buddhist Cult of Avalokita and his Consort Tārā the Saviouress-illustrated from the Remains of Magadha." In *The Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland*. pp. 51-89.

## 第2次文献（和文）

- 金本拓士 1997 「ポアとは何か！ーインド・チベット密教ヨーガの一考察」『現代密教』第9号，85-100頁。
- 大久保良俊 2011 「発心即到」と「自心仏」『天台学報』53，13-20頁。
- 勝又俊教 1974 「弘法大師教学の根底にあるもの（一）ー自心仏と本覚と菩提心ー」『密教学研究』6，47-65頁。
- 勝又俊教 1981 『弘法大師の思想とその源流』山喜房佛書林。
- 川崎信定 1993 『原典訳 チベットの死者の書』ちくま学芸文庫。
- 北村太道 1982 「ラマ教における儀礼」『チベット密教の研究：西チベット・ラダックのラマ教

- 文化について』インドチベット研究会編, 種智院大学密教学会, 永田文昌堂, 347-396頁.
- 北村太道(訳)2020『藏文和訳 大日経』『大日経』系密教原典研究叢刊1, 起心書房.
- ツルティム・ケサン/山田哲也 1999『ツォンカバ チベットの密教ヨーガ』文栄堂書店.
- 苦米地等流 1992「NāropaのPañcakrama 註とそのチベット仏教における位置 - Tson kha paの立場を中心に-」『日本西藏学会会報』第38号, 2-9頁.
- 平松敏雄 1986『『秘密集会』の「五次第」と「ナーローの六法」について』山口瑞鳳編『チベットの仏教と社会』春秋, 163-198頁.
- 生井智紹 2008『密教・自心の探求-「菩提心論」を読む-』大法輪閣.
- 槇殿伴子 2018『『マニ・カンブン』の木版印刷版について』仏教思想学会編『佛教学』59, 山喜房佛書林, 53-80頁.
- 槇殿伴子 2019『『マニ・カンブン』における「ヴェッサンタラジャータカ」-チベット王ソンツェンガンポとダライ・ラマ五世の布施行』『日蓮学』第3号, 17-50頁.
- 槇殿伴子 2021a『『マニ・カンブン』における如来蔵思想』『印仏研』69(2), 810-806頁.
- 槇殿伴子 2021b『チベット建国説話と観自在信仰-『マニ・カンブン』「偉大なる歴史章」を中心に』起心書房, 2021年.
- 槇殿伴子 2021c『『マニ・カンブン』における観自在菩薩の灌頂儀礼』『印度學佛教學研究』第70巻1号, pp.368-363.
- 槇殿伴子 2022a『『マニ・カンブン』における観自在菩薩六字真言成就法儀軌王統流』『宗教研究』(別冊)第95号, pp.196-197.
- 槇殿伴子 2022b(印刷中)『『マニ・カンブン』における観自在菩薩の「六字真言成就法」-ソンツェンガンポ王の伝統-(分科と試訳)』『身延論叢』.
- 松長有慶『秘密集会タントラ和訳』法蔵館、2000年.
- 渡邊温子「師資相承から見る チベットの聖者ミラレーパの仏教者としての生き方」学位請求論文(大谷大学)2014年. 2021年11月11日ダウンロード  
[https://otani.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository\\_view\\_main\\_item\\_snippet&index\\_id=25&pn=1&count=50&order=17&lang=japanese&page\\_id=13&block\\_id=28](https://otani.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_view_main_item_snippet&index_id=25&pn=1&count=50&order=17&lang=japanese&page_id=13&block_id=28)

## 註

- 1 サキヤ・パンディタ(1182-1251)はニンマ宗の埋蔵経典を糾弾する。それについてのニンマ宗側からの反論については、Makidono 2012において考察している。
- 2 Macdonald 1969; Ehrhard 2000; 2013; Makidono 2014; 槇殿2018; 槇殿2012.
- 3 Waddell 1894; Kapstein 1992; 槇殿2019.
- 4 トンジュクは「入街」、「入宅」とも訳されているが、本稿では『マニ・カンブン』における用語の文脈から「入屍体」とする。
- 5 経典の三分割法における「序分」に相当すると思われる。
- 6 槇殿2022a.
- 7 Gyatso 1981: 103.
- 8 Gyatso 1981: 105.
- 9 ツェンカオチェによる瞑想学派の系譜については、Makidono 2016: 23に指摘した。
- 10 Mullin 1996.
- 11 ツルティム・ケサン/山田 1999: 3-9.

- 12 苦米地1992: 5-6。
- 13 渡邊2014: 45, n. 93。「ボア」についての先行研究には金本1997、Mei 2004, 2009がある。「中有」についての先行研究には、川崎1993, Evans-Wentz 1927, Cuevas 2003, Germano 2007, Lauf 1977, Powers 1995: 325-354, Thurman 1994, Venerable Lama Lodo 1982.
- 14 生存年は、Andrew Quintman 氏によるデータを参照した。https://treasuryoflives.org/biographies/view/Milarepa/3178
- 15 「甚深なマハームドラーとナーローの六法」(*Zab lam Phyag chen Chos drug*) (ja, fol. 53a4, p. 105.4): te lo pa | des nā ro pa | des lho brag mar pa chos kyi blo gros || des gung thang gi mi la thos pa dga' la || des rin po che sgam po pa la gnang pa'o ||
- 16 川崎信定氏は、「『ナーローの六法』はカーギュ派に独占されるものではなく、むしろ宗派意識成立以前の身体ヨーガ的瞑想実践修法として汎チベット仏教の性格を持つものである」(川崎1993: 231-232)と定義している。川崎信定氏はカギュ派の実践としての「ナーローの六法」にトゥンモ、幻身(ギユル)、夢(ミラム)、光明、中有、ボアの六支分を立て、マハームドラーを目的して行われると解説している。さらに中有に六つの支分を立て、「生前の修行段階」と死後49日間の階梯の二つのうち、前者には、「キェネエ」(「この世に生きる姿の中有」)、「ミラム」(夢)、「サムテン」(禪定)の三つ、後者に、「チカエ」(「死の瞬間の中有」)、「チョエニ」(存在本来の姿)、「シパ」(再生へ向かう迷いの状態)の三つの中有を立てる(川崎1993: 228-231)。このうち、『マニ・カンブン』における中有の六枝分と名称的に共通する項目は、「キェネエ」「ミラム」「チカエ」「シパ」である。
- 17 川崎1993: 231.
- 18 Kapstein 2014: 13.
- 19 檣殿2022ab.
- 20 MKB (S, e, p. 278.6).
- 21 北村1982, 2021; 檣殿2021c.
- 22 起心書房代表取締役安元剛氏に『大日経』から『秘密集会』に受け継がれた勝義菩提心についてご教示を受けた。この点については、生井1970, 2008を参照するよう安元氏により指南していただいた。安元氏に謝意を表する。
- 23 檣殿2021: 116, n. 212.
- 24 北村2021: 358, 374; 檣殿2021c.
- 25 MKB (S, e, p. 427.3).
- 26 ケサン・山田1999: 123.
- 27 観自在菩薩成就法の系譜については、Ehrhard 2000; Gyatso 1981; Kapstein 1992: 83-85を参照のこと。
- 28 經典の三分割法における「正宗分」に相当すると思われる。
- 29 經典の三分割法における「流通分」に相当すると思われる。
- 30 MKB (S, e, p.577.2): bar do drug gi gdams pas grol lugs bshad pa 'phrul gyi dum bu.
- 31 ツルティム・ケサン氏は、ツォンカバが「ナーローの六法」の解説書を執筆する動機の一つに、「とにかく、いままでカギュ派がマルバとミラレバから伝承していき脈・息風・トゥンコルの作法がまだ失われていないのである」(ツルティム・ケサン/山田 1999: 9)と述べ、脈・息風が「ナーローの六法」にとって重要な要素であることを伝えている。
- 32 MKB (S, e, p. 458.5): rang thugs rje chen por sgom.

- 33 MKB (S, e. p. 458.6): om̄ mā ṅi padme hūm̄ | zhes yid kyis bzlas pas | rlung rtsa a wa dhu tir tshud nas chos nyid rang gsal du 'char bar 'gyur ro ||.
- 34 MKB(S, waṃ, pp. 404.4-416.5): thugs rje chen po'i bar do mun sel sgron me'i zhal gdams)。ツェリン・ティジン・リンポチェによる英訳において、「口授巻」における「中有」の英訳は本研究によって使用するテキストと対応しない (H.E. Tsering 2007: II, 707-713)。また、「口授巻」における「ボア」は英訳に対応箇所がない。
- 35 MKB (S, waṃ, pp. 417.1-420.5): sprul pa'i rgyal po'i 'pho ba'i zhal gdams.
- 36 生存年は Daniel Hirshberg 氏によるデータを参照した。https://treasuryoflives.org/biographies/view/Nyangrel-Nyima-Ozer/5999
- 37 ニャンレルの伝記と『マニ・カンブン』「口授巻」については Phillips 2004に解説されている。
- 38 「他の仏陀の教えのときの〔ソンツェンガンポ〕王の行の歴史」(Sangs rgyas gzhan gyi bstan pa la mdzad pa'i lo rgyus) (1) 世自在王 (rgyal po 'jig rten dbang phyug)、(2) 般若莊嚴女 (bu mo shes rab brgyan) (3) 月金剛王子 (rgyal bu zla ba rdo rje)、(4) レヌ王子 (rgyal bu las nus)、(5) 慈力王子 (rgyal bu byams pa stobs ldan, Maitribala)、(6) 宝王子 (rgyal bu rin chen)、(7) 法ラマ王 (rgyal bu chos kyi bla ma)、(8) 遊戯の王子 (rgyal bu rtsed 'jo can) (9) 金剛藏王子 (rgyal bu rdo rje sde) (10) 法獅子王子 (rgyal bu chos kyi seng ge) (11) 持菩提心王子 (rgyal bu byang chub thugs ldan); MKB (S, e, pp. 279.4-334.5); 第1話番目の「世自在王」はヴェッサンタラジャータカの改作である。『マニ・カンブン』におけるヴェッサンタラ・ジャータカとダライ・ラマ五世 (1617-1682) のジャータカとの比較研究については拙稿2019, 2020で解説している。
- 39 MKB (S, e, pp. 293.3-297.3).
- 40 MKB (S, e, p. 436.4): sems sangs rgyas su ngo sprad.
- 41 MKB (S, e, p. 572.4-5): sems can sangs gryas su ngo sprad ces pa sems can la gnas lugs kyis ma khyab pa med pas | gnas lugs ngo shes nas rang ngo rang gis shes pas sangs rgya'o || sems can gyi sems dang sangs rgyas kyi thugs dbyer med gnas lugs su gcig || gnas lugs rtogs pas sangs rgyas su ngo sprod do ||.
- 42 MKB (S, e, p. 518.5-6): thugs rje chen po'i thugs ma bcos khyab brdal chen mo.
- 43 北村1982, 2021; 槇殿2021c.
- 44 MKB (S, e, p. 436.3-4): dang po rang bzhin gnas pa'i bar do la | ma pang nas bu shor ba ltar bu yin pas | ma khyab gdal chen mo'i gnas lugs las bu rig pa'i dum bu chad pas | ma bu brda sbyar 'khor 'das shan dbye ste | sems sangs rgyas su ngo sprad do ||.
- 45 S版B版共に、sems can となっている。
- 46 MKB (S, e, p. 571.6-572.5): dang po rang bzhin gnas pa'i bar do la ma pang nas bu shor ba lta bu zhes pa | rang bzhin gans pa'i bar do bya ba sangs rgyas dang sems can gnyis ka'i gzhi yin par na gans pas bar ma do zhes bya'o || gzhi'i gnas lugs de ma rtogs ma rig pas ma pang nas bu shor ba ltar | 'khor bar skyes nas lus blangs pa la bya'o || ma khyab brdal chen mo'i gnas lugs las zhes pa gnas lugs ma dang 'dra ba | ya tha sansg rgyas nas ma tha mñar med pa'i dmyal ba yan chad mnyam pa ris med khyab bdral chen por gnas pa las bu rig pa'i dum bu chad ces pa | gnas lugs kyi don ma rig ngo ma shes pas bu rig pa'i dum bu 'khor bar skyes nas | 'gro drug gcig nas gcig tu 'khor ro || ma bu brda sbyar zhes pa ma

gnas lugs ma bcos pa khyab brdal chen mo rang la yod pa de | bu rang gi rig pas gnas lugs ma ngo shes pas | mas bu ngo shes bus ma ngo shes pas | ma bu brda 'byor 'khor 'das shan 'byed de | ces pa 'khor ba'i gnas lugs ngo ma shes pas 'khor nas rigs drug tu 'khyams 'das pa gnas lugs ngo shes pas sku gsum du sangs rgyas so || sems can sangs gryas su ngo sprad ces pa sems can la gnas lugs kyis ma khyab pa med pas | gnas lugs ngo shes nas rang ngo rang gis shes pas sangs rgya'o || sems can gyi sems dang sangs rgyas kyis thugs dbyer med gnas lugs su gcig || gnas lugs rtogs pas sangs rgyas su ngo sprad do ||; MKB (B, fols. 371b2-372a3).

47 MKB (S, e, p. 436.4-5): gnyis pa skye shi bar do la rgod phrug mas gso ba lta bu | bla ma'i gdams ngag la rim gyis goms 'dris brtan par byas la | rig pa rtsal 'byongs par sbyangs nas | rigs drug gi g.yang sa la nyam mi nga bar bya'o ||.

48 S版は rgam pos、B版は sgam pos とある。

49 MKB (S, e, pp. 572.5-573.5): gnyis pa skye shi'i bar do la | zhes pa skye shi'i bar do bya ba dang po ma la skyes nas | tha ma shi'i bar la khyung phrug gam rgod phrug mas gso ba ltar zhes pa | khyung ngam rgod kyis bu mas gsos nas gshog phrug rtsal sbyangs pas g.yang la nyam mi nga bar | bar snang rlabs kyis gcod pa ltar | bla ma'i gdams ngag la rim gyis goms 'dris brtan par byas la | zhes pa bla ma'i gdams ngag gnas lugs kyis don sangs rgyas sgam [rgam S] pos ma mdzad | sems can sgrin pos ma bcos | rang gsal rang byung rang shar dang grol rang gnas kyis ngang la | dang po ngo shes | bar du nyams len goms pas rgyud la 'dris | tha ma brtan pa thob pas rig pa rtsal 'byongs par byas la [x S] zhes pa rig pa snang ba la rtsal sbyangs | snang ba sems su shes | sems stong pa rang shar rang grol du shes | rigs drug gi g.yangs la nyam mi nga bar bya'o || zhes pa dmyal ba rang gi sems su shes tsa grang sdug bsngal rang sar grol | yi dags rang gi sems su shes bkres sgom sdug bsngal rang sar grol | byor song rang gi sems su shes bkol spyad bsad bcad rang sar grol | mi rang gi sems su shes 'pho 'gyur sdug bsngal rang sar grol | lha ma yin rang gi sems su shes 'thab rtsod sdug bsngal rang sar grol | lha rang gi sems su shes 'pho lhung gi sdug bsngal rang sar grol lo || rigs drug sems kyis snang bar shes | sems stong apr shes | stong pa la sdug bsngal med pas rigs drug 'khor bar skye ba'i g.yangs la nyam mi nga'o ||; MKB (B, fols. 372a3-b3).

50 MKB (S, e, p. 436.5-6): gsum pa shes pa snga phyi'i bar do la | mun khung du sgron me bteg pa ltar rig pa gsal btab ste | rnam rtog ye shes su gsal btab la chos nyid rgyun chad med par ngo sprad do ||.

51 MKB (S, e, pp. 573.6-574.3): gsum pa shes pa snga phyi'i bar do la zhes pa | 'das pa snga so la ma shor | ma 'ongs pa phyi so la ma shor bar | da ltar gyi shes pa skad cig ma rang gsal rnam byun gdu shar ba 'di ngos bzung ba ni | mun khung du sgron me bteg pa ltar zhes pa | dper na mun khung du mar me 'am sgron me bteg pas | mun pa bsal nas snang ba bkra lam me 'ong ba ltar rig pa gsal btab ste | zhes pa rig pa rang byung rang gsal rang shar de ngo shes pas ye shes lhag la 'char ro || rnam rtog ye shes su gsal btab pas zhes pa | rnam rtog phra rags gang byung ba rang byung rang shar rang gsal du dangs pas | rnam rtog ye shes su 'char ro || chos nyid rgyun chad med par ngo sprad do ces pa | rnam rtog la rgyn chad med pas ye shes la rgyun chad med par shar | chos nyid la rgyun chad med par

- rang grol bar ngo sprad do ||; MKB (B, e, fol. 372b3-6).
- 52 チベット語の rteng pa の訳語には Tsering Rinpoche が “back” と訳しているのを採用した。
- 53 MKB (S, e, pp. 436.6-437.1): bzhi pa rmi lam gyi bar do la khungs [khungs D, khugs S] ngan pa la bu lon gyi rteng pa thob pa ltar goms 'dris brtan pa'i rtags 'char bas | rmi lam dang srid pa'i bar do 'dra bas nyam mi nga ba'i gdengs thob pas rang dbang rang la yod par ngo sprad do ||.
- 54 チベット語の原文を直訳すると、krad ma sad は「弦が切れない・覚めない」を意味するが、ツェリン・ティズイン・リンポチェの英訳「subsequently wakes」に従った (H.E. Tsering 2007: I, 852)。
- 55 「六字真言成就」では、「無畏の自信を得る nyam mi nga ba'i gdengs thob ba」。
- 56 MKB (S, e, pp. 574.3-575.1): bzhi pa rmi lam gyi bar do la zhes pa gnyid zim byung nas | krad ma sad kyi bar du rmi lam sna tshogs su rmi na 'di khungs ngan po la brtan [rteng S] pa thob pa ltar zhes pa | dper na mi khungs ngan pa la 'brel gtong ba la brtan [rteng S] pa bzang po zhig thob na | 'brel de yal bar 'chor dogs med pa dang 'dra bar | goms 'dris brtan pa'i rtags 'char bas zhes pa | nyams len la brtan pa thob pas rmi lam du nyin bar gyi nyams 'char na | rmi lam dang srid pa'i bar do 'dra bas zhes pa | rmi lam gyi snang ba yang dbang po tshogs drug gzhan gyi snang ba ma yin te sems kyi snang ba yin | srid pa bar do'i snang ba yang dbang po tshogs drug gzhan gyi snang ba ma yin te sems kyi snang ba yin | nyams myong gi gdeng thob pas zhes pa | rang la chos nyid rang shar rang grol gyi nyam kyi gdeng thob pas zhes pa | rang la chos nyid rang shar rang grol gyi nyams kyi gdeng dang mi 'bral bar brtan pa thob pas | rang la rang dbang thob par ngo sprad do zhes pa | rig pa sems la rang dbang thob tsa na 'khor bar 'khyam don med pas | sangs rgyas la mi thob pa'i dbang med par ngo sprad do ||; MKB (B, e, fol. 372b6-373a4).
- 57 チベット語の tsha bo は字義通りには、孫息子を意味する。
- 58 MKB (S, e, p. 437.1-2): lnga pa 'chi kha ma'i bar do la a ne ma byams ma'i khim du tsha bo 'gro ba ltar | gong du bla ma'i gdams pa la goms 'dris brtan pa thob nas 'chi ba la brod pas mi 'tsher te | shes pa mi gsal ba gsal bar ngo sprad do ||.
- 59 MKB (S, e, S, p. 575.1-6): lnga pa 'chi kha ma'i bar do la zhes pa | phyi dbugs ni ma chad | 'byung ba rims kyis thim pas | sa chu la thim pas lus mi theg | chu me la thim pas kha sna skam | me rlung la thim pas drod rkang ma thil nas 'chad | rlung rnam par shes pa la thim pas dbugs sna thung la phyir 'phul | nang du bsdud mi shes | rnam par shes pa 'od gsal la thim pas phyi dbugs chad de snang ba 'gag go | a ne byams ma'i gam du tsha bo 'gro ba ltar zhes pa | dper na 'jig rten na a ne byams ma'i gam du tsa bo 'gro ba de mi 'tsher bar brod pa skye ba ltar | gong du bla ma'i gdams ngag la goms 'dris brtan pa thob pas zhes pa | 'chi ba ma byung gi gong du skye shi'i bar do la | sngon la bla ma'i gdams ngag thob pas | rang gis rang ngo shes | bar du nyams len byas pas goms 'dris brtan pa thob nas 'khor ba la nyam mi nga ba'i gdeng dang ldan na | 'chi ba la brod pas ma tsher te zhes pa | rang sems la dbang thob pas | shi nas sangs rgya bas brod | 'khor ba la nyam mi nga bas mi 'tsher ro || shes pa mi gsal ba gsal bar ngo sprodes pa | byung ba rims kyis thim nas | byung tsam na | shes pa nyams len don la mi gsal bar byin byin 'dug tsam na | rig pa gseng zhing chos nyid gsal dag gi klung du byi dor bya'o || yang na bla ma 'am mched grogs kyis

gsal btab cing ngo sprad do || MKB (B, e, fol. 373a4-b3).

- 60 ツェリン・ティズイン・リンポチェの英訳に従った (H.E. Tsering 2007: vol.1, p. 854)。
- 61 MKB (S, e, pp. 436.3-437.3): dang po rang bzhin gnas pa'i bar do la | ma pang nas bu shor ba ltar bu yin pas | ma khyab gdal chen mo'i gnas lugs las bu rig pa'i dum bu chad pas | ma bu brda sbyar 'khor 'das shan dbye ste | sems sangs rgyas su ngo sprad do || gnyis pa skye shi bar do la rgod phrug mas gso ba lta bu | bla ma'i gdams ngag la rim gyis goms 'dris brtan par byas la | rig pa rtsal 'byongs par sbyangs nas | rigs drug gi g.yang sa la nyam mi nga bar bya'o || gsum pa shes pa snga phyi'i bar do la | mun khung du sgron me bteg pa ltar rig pa gsal btab ste | rnam rtog ye shes su gsal btab la chos nyid rgyun chad med par ngo sprad do || gsum pa shes pa snga phyi'i bar do la | mun khung du sgron me bteg pa ltar rig pa gsal btab ste | rnam rtog ye shes su gsal btab la chos nyid rgyun chad med par ngo sprad do || bzhi pa rmi lam gyi bar do la khungs [khungs D, khugs S] ngan pa la bu lon gyi rteng pa thob pa ltar goms 'dris brtan pa'i rtags 'char bas | rmi lam dang srid pa'i bar do 'dra bas nyam mi nga ba'i gdengs thob pas rang dbang rang la yod par ngo sprad do || Inga pa 'chi kha ma'i bar do la a ne ma byams ma'i khim du tsha bo 'gro ba ltar | gong du bla ma'i gdams pa la goms 'dris brtan pa thob nas 'chi ba la brod pas mi 'tsher te | shes pa mi gsal ba gsal bar ngo sprad do || drug pa srid pa'i bar do la yur ba kong chad la wa btsugs pa 'dra ste | phyi dbugs chad nang dbugs ma chad pa la chos nyid rgyun mthud [mthud D, 'thud S] nas brtan pa rab des grol | 'bring bar do shes pas grol | tha ma bar dor lhas lung bstan te grol bas | dbang po rab 'bring tha ma gsum gyi grol lugs yin no || MKB (B, e, fol. 373b3-374a3).
- 62 MKB (S, e, p. 575.6-577.2): drug pa srid pa'i bar do la zhes pa lus sems bral te rig pa brgyal ba sangs nas | srid par skye ba len par byed pa'i snang ba 'char te | de nas lus cig ma blang bar la srid pa'i bar dp bya ba yin no || yur ba kong chang la wa 'dzugs pa dang 'dra zhes pa | dper na yur ba kong chad du song ba la | lchang shing las byas pa'i wa btsugs na chu nar gyis 'gro ba dang 'dra bar | phyi dbugs chad nang dbugs ma chad pa la zhes pa | phyi'i dbugs chad pa dang rnam par shes pa 'od gsal la thim pas | drod ma yal tshe nang dbugs 'od gsal gyi ngang la gnas so || chos nyid rgyun 'thud nas zhes pa | gong du nyams len byas pa'i chos nyid stong gsal de dang | rnam par shes pa 'od gsal la thim pa de | 'od dang 'od 'dres pa ltar dbyer mi phyed par song bas | chos nyid bar chad med par rgyun 'thud pas | brtan pa rab des grol le || zhes pa gong du nyams len brtan pas | rnam shes 'od gsal la thim zhing | 'od gsal ngo shes nas rig pa rang ngo shes ta chos kyi skur grol lo || 'bring bar dor ngo shes pas grol zhes pa brtan pa 'bring ngo de | chos nyid 'od gsal ma zin kyang bar dor yid kyi lus blangs nas snang ba 'gyu byed can zhig 'od bas de bar dor ngo shes pas | thugs rje chen po'i gsung yi ge drug pa dran pas | thugs rje chen po'i sku lonsg spyod rdzogs par grol | tha ma bar dor lhas lung bstan pas grol ba zhes pa bar do ma zin na | las kyi rlung gis btab nas yid snang 'khrugs pas 'jigs pa'i sgra thos | thugs rje chen pos mi 'jigs pa'i lung bstan nas sprul pa'i skur grol nas sangs rgya | dbang po rab 'bring tha ma gsum gyi grol lugs la ngo sprad ces pa | dbang po rab chos skur grol | 'bring longs skur grol | tha ma sprul skur grol lo || sku gsum ngo sprad pa | bar do drug gi gdams pas grol lugs bshad pa 'phrul gyi dum bu'o ||

- 63 MKB (S, waṃ, p. 404.5-6): sprul pa'i rgyal po srong btsan sgam po'i bar do drug gi zhal gdams la drug las | rang bzhin gnas pa'i bar do la ma pang nas bu shor ba lta bu | skye shi'i bar do la rgod phrug mas gso ba lta bu | shes pa snga phyi'i bar do la mun khung du sgron me btegs pa lta bu | rmi lam gyi bar do la khungs ngan pa la rteng pa thob pa lta bu | 'chi'i kha'i bar do la a ne byams ma'i gnas su tsha bo 'gro ba lta bu | srid pa'i bar do la yur ba rkang chad la ba btsugs pa lta bu'o ||.
- 64 MKB (S, waṃ, pp. 404.6-405.1): rab gzhi'i gnas lugs rtogs pas sangs rgya | 'bring 'chi khar chos nyid 'od gsal ngos zin pas bar do med par sangs rgya | tha ma bar do ngos zin nas sangs rgya ba yin no ||.
- 65 MKB (S, waṃ, p. 407.1-5): da 'khor bar 'khyams pa de ji ltar bzlog na | dpe gang ltar rgyal bu 'khyams pa de dus nam zhig blon po gcig dang 'phrad pas rgyal bu yin par shes shing khrid nas ma dang phrad pas | bus kyang ma ngo shes mas kyang bu ngo shes pa ltar da lta mi lus gtsang ma thob pa'i dus su blon po lta bu'i bla ma thugs rje chen po'i lta dgongs dang ldan pa gcig gis | slob ma rgyal bu 'khyams pa lta bu da lta 'khor ba na 'dug kyang las dang skal bar ldan pa cig la | ma khyab gdal chen mo'i gnas lugs rang la yod pa de | bu rig pa'i dum bu rgyal bu 'khyams pa lta bu la | chos nyid stong gsal las rig pa gsal la ma 'gags pa de | shar yang sems nyid stong gsal ngang las shar | thim yang sems nyid stong gsal ngang du thim pas chos nyid ma bu brda 'byor ba'o ||.
- 66 MKB (S, waṃ, p. 407.5-408.2): rgyal bu de rgyal sar phyung nas dbang bskur ba ltar | ye shes rtsal gyi rig pa shar te | chos nyid ma bu dbyer med stong gsal ma 'gags rangbyung du rang la gnas pa chos kyi dbyings kyi ye shes | gsal la ma bsgribs pa me long lta bu'i ye shes | mnyam pa ris med du 'dus pa mnyam pa nyid kyi ye shes | gsal lam 'dres par 'dug pa so sor rtosg pa'i ye shes | gzhan nas btsal du med cing rang la ye nas yod pa bya ba grub pa'i ye shes te | ye shes lnga rang la shar bas rgyal bu der 'khyams kyis dogs pa med par dbang thob pa ltar | rang gi rig pa la dbang thob pas 'khor bar 'khyams kyis dogs pa med pa yin no ||.
- 67 MKB (S, waṃ, 408.2-5): rgyal po de rgyal po chen por gyur nas 'bangs kha lo sgyur ba ltar | chos nyid rang shar dang rang grol gyi rig pas 'khor ba mya ngan las 'das par dbang bsgyur | zhe sdang rang sar grol chos kyi sku shar dmyal ba rang sar grol lo || ser sna rang sar grol longs spyod rdzogs pa'i sku shar yi dags rang sar grol lo || gti mug rang sar grol sprul pa'i sku shar dud 'gro rang sar grol lo || 'dod chags rang sar grol ngo bo nyid kyi sku shar mi rang sar grol lo || khong khro phrag dog rang sar grol mngon par byang chub pa'i sku shar lha ma yin rang sar grol lo || nga rgyal rang sar grol rdo rje'i sku shar lha rang sar grol lo || ma khyab gdal chen mo las bu rig pa'i rtsal ma 'gags pas | sku drug ye shes drug tu shar | 'gro drug rang sar grol chos nyid ma bu brda 'byor ba yin no ||.
- 68 北村1982, 2021; 横殿2021c.
- 69 MKB (S, waṃ, pp. 408.5-409.4): gnyis pa skye shi'i bar do la | rgod phrug mas gso ba ltar bla ma'i gdams ngag gis goms 'dris brtan par bya ste | dper na rgod phrug mas gso ba de | dang po sgo nga bsros | bar du phru gu lhags nas sha rus la sogs pas rim par gsos | mthar gshog sgro rgyas nas ma'i phyir 'ong ba ltar | dang po bla ma thugs rje chen po'i dgongs pa dang ldan pa des | slob ma skal ldan rnams la khyung ngam rgod sgo nga gso ba ltar thugs



rje chen po'i bskyed rim dang rdzogs rim gyis lus ngag yid gsum tha mal gyi zhen pa bzlog par bya | rgod phrug bar du rkang dang rus pas gso ba ltar | nyon mongs pa dug lnga dang rnam rtog phra rags thams cad rang shar rang grol du rig pa'i rtsal sbyongs | rgod phrug ma'i phyir 'phur nas mdangs rtsal mnyam pa ltar | rig pa rtsal 'byongs pas snang ba sems su shes sems stong par shes | stong pa rang shar rang grol du shes pas phyi snang ba rang sar grol | nang dug lnga rnam rtog rang shar rang grol du shes pas rigs drug tu skye ba'i rgyu rkyen zad nas 'khor ba'i g.yang sa las nyam mi nga'o ||

70 MKB (S, waṃ, pp. 409.6-410.2): gsum pa shes pa snga phyi'i bar do la mun khung du sgron me bteg pa lta bu ni | rnam rtog ye shes su gsal btab | shes pa snga so la ma shor phyi so la ma shor | da lta'i shes pa rang shar 'di ngos bzung | dper na mun khung du sgron me bteg pas mun pa bsal ba med par snang bkra sa le song ba dang 'dra bar | rig pa gsal btab ste rig pa rang byung rang gsal rang shar ba de shes pas | rnam rtog rang byung du shar rang grol du btang bas rang gsal ye shes su 'char ro || rnam rtog la rgyun chad med pas ye shes la rgyun chad med | rnam rtog rang shar rang grol bas chos nyid la rgyun chad med do || de lta bu'i rnam rtog chos nyid du ngos zin tsam na | sgom thun bsgom bya mi dgos shing | rang shar rang grol chos nyid kyi ngang du bsgoms pas skad cig kyang rgyun chad med pas chu bo rgyun gyi rnal 'byor bya ba yin no ||

71 MKB (S, waṃ, p. 411.1): sems kho na 'khrul nas rmis pa yin no.

72 MKB (S, waṃ, p. 412.1): rang gi rig pa thugs rje chen po'i thugs ye shes gsal stong du ngo shes |.

73 MKB (S, waṃ, p. 412.1-2): bar du nyams len byas pas nyon mongs pa dang rnam par rtog pa thams cad rang grol du song nas | kun gzhi las dang las kyi smin rang sar dag ||

74 MKB (S, waṃ, p. 412.2): khor ba ka dag tu rtogs pas 'khor ba la nyam mi nga | rang sems thugs rje chen po'i dgongs pa dang ldan pas sems can gyi don byed pa la brod pa skye'o.

75 MKB (S, waṃ, p. 412.6) : chos nyid stong gsal chos kyi sku sangs rgyas te bar do med par grol lo.

76 MKB (S, waṃ, p. 413.2): zhag bdun tsam du rig pa brgyal nas bag la zha ba'i tshul du gnas | de'i dus su chos sku'i snang ba 'char te | thugs rje chen po'i rnal 'byor bas | rab gsal stong chos nyid kyi don brtan pas de'i dus su chos skur grol te bar dor snang ba mi 'char ro ||

77 MKB (S, waṃ, pp. 412.5-414.3): de nas zhag bdun nas longs sku'i snang ba 'char te | rig pa brgyal ba de sangs nas sngon dus kyi sha gzugs de yin snyam pa byed | lus de med cing lus kyi grib ma'ang med de rmi lam gyi lus dang 'dra | lus med pas dbang po lnga med kyang sems kyi lus de la dbang po tshogs drug gi snang yod sha khrag gis rdos pa'i lus ma yin pas | yid kyi lus de khams gsum thams cad du thogs med du 'char ro || de'i dus su sngar ma mthong ba'i yul mthong ste yul zhing khams rnam par dag pa mthong | smra ma myong ba'i chos smra ste chos spyi dang rang gi mtshan nyid kyi chos smra shes pa'i snang ba 'char | thugs rje chen po'i rnal 'byor ba 'bring der grol te | snang ba sku'i khyer so la brtan pa thob nas snang ba thams cad thugs rje chen po'i zhing khams dang skur 'char | grag pa gsung gi khyer so la brtan pa thob nas sgra thams cad | om ma ṇi padme hūṃ zhes pa'i yi ge drug pa'i sgrar 'char | dran rtog thugs kyi khyer so la brtan pa thob nas dug lnga ye shes lngar 'char | zhe sdang me long lta bu gsal la ma bsgribs par 'char | gti mug chos

- kyi dbying kyi ye shes gsal lam 'gags par 'char | nga rgyal mnyam pa nyid kyi ye shes chos nyid mnyam pa ris med du 'char | 'dod chags so sor rtog pa'i ye shes gsal la ma 'dres par 'char | phrag dog bya ba grub pa'i ye shes sems can gyi don la thugs rje rgyun chad med par 'char ro || thugs rje chen po'i sku rgyan cha lugs gsung ma 'gags rang byung thugs stong pa dang snying rje dbyer med pa rgyun chad med par longs spyod rdzogs pa'i skur grol lo || dbang po 'bring po'i grol lugs so ||.
- 78 MKB (S, waṃ, pp. 414.3-415.1): shi nas zhag bcu bzhi lon nas nyi shu rtsa gcig gi bar gyi zhag bdun la sprul sku'i snang ba 'char te | rig pa shin tu gsal bas ma shi ba'i dus bas bdun 'gyur gyis bkra ba cig 'ong ste | nga ma shi ba yin pa la pha ma dang gnyen bshes rnam ngu 'bod byed pa mthong ste | ma ngu byas nas reg pa'am bris kyang mi nyan pa sogs 'byung ste | pha ma yul dang khang khyim bu nor gyi sems de kor ro ro 'ong ngo || zhag nyer gcig nas shi ba shes te rig pa yul la 'jug pa ni lus rul ba mthong ba'am | lus ma rnyed nas sdug bsngal dpag tu med de | de'i tshe yi dam gyi lha thugs rje chen po bsgoms pa de dran na lus sprul pa'i skur grol ba'i dus yin no ||.
- 79 MKB (S, waṃ, pp. 414.6-415.1): zhag nyer gcig nas shi ba shes te rig pa yul la 'jug pa ni lus rul ba mthong ba'am | lus ma rnyed nas sdug bsngal dpag tu med de | de'i tshe yi dam gyi lha thugs rje chen po bsgoms pa de dran na lus sprul pa'i skur grol ba'i dus yin no ||.
- 80 MKB (S, waṃ, p. 415.1): zhag nyer brgyad nas sum cu so lnga'i bar du 'od rnam pa lnga ru 'char te 'od du 'thums nas mi thar ba'i snang ba 'byung ngo || de'i dus su dran rtog thugs kyi khyer so rang shar rang grol gyi don dran pas lam du 'khyer ro ||.
- 81 MKB (S, waṃ, p.415.4-416.1): zhag sum cu so drug nas bzhi bcu zhe gnyis kyi bar la 'od rnam pa lnga la lam drug 'char te | lam dkar po la phyin na lha'i snang ba 'char | lam ljang gu la phyin na lha ma yin gyi snang ba 'char | lam ser po la phyin na mi'i snang ba lam nag po la phyin na dud 'gro'i snang ba 'char | lam thal skya la phyin na yi dwags kyi snang ba 'char | lam dmar nag la phyin dmyal ba'i snang ba 'char ro || de'i dus su bla ma yi dam mkha' 'gro la gsol ba 'debs pa dran pa gal che ste | de dran na lung ston te khyod kyi yi dam gyi lha ni thugs rje chen po yin no || snying po oṃ ma ṇi padme hūṃ zhes pa 'di yin no || lam dkar po la song cig (zhig) || khyod kyi skye gnas 'di yin no || [S, p. 416.1] lus 'di yin no || chos 'di yin no zhes pa la sogs pa'i lung ston pa 'ong ngo || de'i dus su lhan cig skyes pa'i lhas dge ba dang | lhan cig skyes pa'i 'dres mi dge ba zlo ba'i snang ba 'char zhing bla ma yi dam lhas rgyal kha bzung nas mtho ris su lam ston no || dbang po tha ma der grol nas skye ba phyi ma la chos dang phrad de las kyi 'phro len no ||.
- 82 MKB (S, e, p. 416.2-4): zhag bzhi bcu zhe gsum nas zhe dgu'i bar la lus len te snang ba 'gyur nas | gang du skye ba'i lus de yin pa snyam byed cing las kyis ded nas mngal khar 'gro'o || de dag ni bar dor zhag bdun phrag bdun gnas pa'i dbang du byas pa yin la | yun de tsam mi gnas par bstan pa ni bar dor yi dam dang snying po dran na der grol bar 'gyur ro || thugs rje chen po'i bar do mun sel sgron me'i zhal gdams so || iti ||.
- 83 MKB (S, e, pp. 458.6-459.6): oṃ ma ṇi padme hūṃ | phy'i'i pho ba ni | rang 'chi ba'i dus la bab pa na | thugs rje chen po'i sku la 'pho bar bya ste | rang gi spyi bor thugs rje chen po bsams la | rig pa bsdu te rlung gis phul tshangs pa'i bu gar bton la | thugs rje chen po'i thugs kar stim pas rang dang gnyis su med par bsam mo || nang gri 'pho ba ni | gsung la

'pho bar bya ste | mdun gyi nam mkha' la | om ma ñi padme hūm | zhes pa'i yi ge drug pa gsal bar bsgoms la | rlung dang rig pa bsdus te kha nas bton la | yi ge la shes pa rgyangs kyis gtad la gsal stong du yal du gzhug go || gsang ba'i 'pho ba ni | thugs la 'pho ste | rig pa dang rlung bsdus la snying ka nas 'pho ste | rig pa rten med du rgyangs kyis btang la spros bral du yal du gzhug go || don gyi 'pho ba ni | 'chi kar rnam shes 'od gsal la thim pa dang | 'od gsal du ngo shes par bas la chos kyi sku la 'pho'o || rtags kyi 'pho ba ni | bar dor sngar gyi goms 'dris brtan pas | thugs rje chen po'i sku dran par 'gyur te | de bsgoms pas longs spyod rdzogs pa'i skur 'pho'o || mtshon pa'i 'pho ba ni | bar do ngos zin na phyi ma las kyi 'phro 'thud sla ste | sems can thams cad kyi don du | thugs rje chen po sprul pa'i skur 'pho ba yin no || MKB (B, e, fols. 301b3-302a1).

84 MKB (S, waṃ, pp. 416.4-417.1): thugs rje chen po'i rnal 'byor bas | gal te glo bur du 'chi rtags byung na 'pho bar bya ste | 'chi rtags la mang na yang | glo bur 'chi rtags bzhi la | mthong ba gsal byed 'od nyams pa zhes bya ste mig btsir bas 'od kyi kor kor med na 'chi | thos byed dbang po sgra nyams pa zhes bya ste rna ba gnyis bkag nas lag mthil gyis mnan pas 'ur sgra med na 'chi | gnam sa'i ka gdung chad pa zhes bya ste lag pa nam mkha' la phyar bas mkhrig ma nas bar chad 'dug na 'chi | bdud kyi mi ring langs pa zhes bya ste lag pa gnyis sor mo sbyar nas bteg pas gzhan ma 'gul bar srin lag bteg na 'chi | de rnams 'dzom na myur du 'chi'o || re re tsam rten 'brel gyis bzlogs te nad med kyang brtag par bya'o ||.

85 MKB (S, waṃ, p. 417.1-3): 'pho ba la drug ste | dbang po rab rang bzhin gyis 'pho ba dang | dbang po 'bring lam gyis 'pho ba dang | de la sku phyag rgya la 'pho ba dang | gsung yig 'bru la 'pho ba dang | thugs thig le chos kyi sku la 'pho ba dang | sa bon yi ge hriḥ dkar po la 'pho ba dang | dbang po tha ma seng ge rnam rol gyi phyag rgyas btsan thabs su 'pho ba'o ||.

86 ツボの中の虚空の例は、シャーントラクシタ『中観莊嚴論註』(Madhyamakalamkaravṛtti (D 3885, fol. 80b3) に平行句があることを、Ulrich Timme Kragh 氏によりご指摘いただいた : bum pa la sogs zhig pa na || bum pa'i nam mkha' la sogs pa || ji ltar nam mkha' 'du 'gyur ba ||.

87 MKB (S, waṃ, pp. 417.3-418.1): de la dbang po rab rang bzhin gyis 'pho ba ni | skye shi med pa'i sems nyid la 'phos pa dang ma 'phos pa gnyis med de | sems la dang po rgyu rkyen gyis bskyed pa med | bar du gang du yang grub pa med | tha ma gang du yang 'gro ba med | skye ba dang 'gag pa med par rgyun du gnas pas skye ba dang 'chi ba'i ming yang med do || 'khor ba sems su shes sems stong pa chos kyi sku yin pas | 'khor ba dang mya ngan las 'das pa las chos kyi sku yang dngos por ma grub | mnar med dmyal ba yang rang gi sems rdo rje'i sku dang dmyal bar mnyam | rig pa ma 'khrul chos kyi dbyings su yal bas dug lnga rang gar rang grol bas shing zad pa'i me rgyu rkyen dang bral ba ltar | thugs rje chen po sgom pa'i rnal 'byor bas | rdos pa'i phung po lus bor nas sems nyid ngang du yal | dper na bum pa'i nang gi nam mkha' chung ngu de bum pa chag pas nam mkha' chen po dag pa lta bu yin no || sems nyid rang grol ye shes chen por rdzogs so || de ni dbang po rab rang bzhin gyis 'pho ba yin no ||.

88 MKB (S, waṃ, p. 418.1-4): dbang po 'bring gis de ltar ma shes na 'pho ba la bzhi ste | dang

po thugs rje chen po'i sku la 'pho ba ni | rang 'chi bar shes pa'i dus su sngon du 'gro ba bla ma dang dkon mchog la mchod pa 'bul | 'gro drug la sbyin gtong btang | rdzas dang yo byad la tshogs sog bya | 'chi ba la mi 'tsher bar brod pa bskyed la | dang po kho na lus bsrang la mdun gyi nam mkha' la thugs rje chen po 'od kyi skur spyang drangs la mos gus drag po bya | mi 'bral rtse gcig tu 'grogs par dam bcas la | rig pa lte ba nas rlung dang lhan cig rngubs nas bsdu la thugs rje chen po'i thugs kar 'phang ngo || sha khrag gi lus 'di bor nas 'ja' tshon lta bu'i sku thob nas thugs rje chen po'i zhing khams su sangs rgyas par 'gyur ro ||.

- 89 MKB (S, waṃ, p. 418.4-6): gnyis pa yig 'bru'i 'khor lo la 'pho ba ni | yi ge drug pa'i 'khor lo nam mkhar bskyed de | 'khor [S, p. 418.5] lo ser po rtsibs drug la dbus su hriḥ dkar po 'od dang ldan pa | rstibs drug la | om ma ni padme hūṃ zhes pa'i yi ge drug pa dkar po bsam | rang gi phung po zo stong lta bur bsams la spyi bo tshang pa'i bu ga kha phye la | 'od zer 'ja' tshon lta bu la rig pa 'khril nas tshangs pa'i bu gar 'don | yi ge drug pa'i 'khor lo la bstim | gsung yid 'bru'i ngang la rgyun du gnas de ni gsung la 'pho ba'i man ngag go ||.
- 90 MKB (S, waṃ, p. 418.6-419.1): gsum pa thugs la 'pho ba ni | thig le dmar po sran ma tsam cig tu bdag gi rig pa de gyur nas phyi nang gi rlung thig le dang mi 'bral ba dang | thig le spros pa dang bral ba de las mi 'gyur bar de'i ngang la rang bzhi gi gnyis 'od gsal ba ma 'gags pa | thig le'i ngo bo mi 'gyur ba grwa zur med pa chos kyi sku'o || de ni thugs la 'pho ba'i man ngag go ||.
- 91 MKB (S, waṃ, p. 419.2-3): bzhi pa yig 'bru la 'pho ba ni | rlung dang shes pa gcig tu bsres te yi ge *hriḥ* dkar po zhig la shes pa gtad la | a wa dhū ti kha phye la 'og rlung drag tu bsams nas 'then pa'i rlung gis shes pa yar sbar la | spyi gtsug bde ba chen po'i 'khor lor *hriḥ* dkar po'i rnam pa can gyis bton la | sum cu rtsa gsum gyi lha gnas sam yang na thugs rje chen po'i thugs kar bskyal lo ||.
- 92 MKB (S, waṃ, p. 419.3-5): dbang po tha ma'i 'pho ba ni | seng ge rnam grol gyi phyag rgyas dbang po'i sgo bkag pa ni | mdzub mo gnyis kyis rna ba gnyis bltab la dgab mthe bong gnyis kyis kha bkag la | 'phen pa'i rlung gis shes pa yar bteḡ la | spyi bo'i tshang phug kha phye la rig pa rten med du rgyangs kyis 'pho'o || rigs drug gnas su mi skye bar sangs rgyas su skad cig gis 'gro'o || de ni dbang po tha ma'i pho ba'o ||.
- 93 MKB (S, waṃ, pp. 419.5-420.1): spyir 'pho ba la rlung sbyang ba gal che ste | rlung la ye shes kyi rlung dang las kyi rlung gnyis so || ye shes kyi rlung sna bug gyon nas rgyu zhag gcig la rlung nyi khri chig stong rgyu la | ye shes kyi rlung dang las kyi rlung phyed phyed rgyu ste | ye shes kyi rlung khri tsho gcig dang lnga brgya las kyi rlung khri tsho gcig dang lnga brgya rgyu'o || sna bug gnyis ka nas rgyu ba'i dus su a wa dhū ti nas rgyu bas chos nyid kyi rlung yin te | de ni rlung 'pho ba'i dus su skad cig gam gnyis gsum bzhi lnga rgyu ste | de'i dus su chos nyid ngos bzung la rig pa gsal dag tu gnas so ||.
- 94 MKB (S, waṃ, p. 420.1-5): rlung bzung ba la gsum | rlung gzhu ltar dgug ste steng rlung thub thang du mnan no || rlung mda' ltar 'phang ste phyir thub thang du 'phang | rlung bum pa ltar bskyl te bar du steng rlung 'og rlung bsdu la thub thang du bzung | rlung 'khor lo ltar bskor te rang nyid thugs rje chen po'i bsgoms pa'i nang stong pa na yar la rtsa ro ma brkyang ma a wa dhū ti gsum gdung btang ba bzhi rtse mo yar rtse mig lkog tu zug ||

mar rtse chu sor zug | a wa dhū ti'i nang nas swar zhing rlung sbyang ngo || mar rtse mtshan ma la zug pas rlung mar 'don pa'i dus su a wa dhū tir bzung | rlung spor ba'i dus su a wa dhū ti'i nang nas yar swar zhing rlung sbyang ngo || rlung ma sbyangs na 'pho ba gnad du mi tshud pas rlung sbyang ba gal che'o || sprul pa'i rgyal po'i 'pho ba'i zhal gdams iti ||.

95 S版はXとある。B版には記載がない。

96 MKB (S, e, pp. 459.6-460.3): om ma ñi padme hūṃ | grong 'jug la | phy'i grong 'jug ni | om ma ñi padme hūṃ | zhes bzlas pas | phyi snang ba'i yul gang dang gang la rig pa gtad pas | snang ba dang rig pa dbyer med du song bal bya'o || nang gi grong 'jug ni | rnam rtog dang sdug bsngal bar mtshams med par skye ba ngos bzungs la | rang shar rang grol nas rnam rtog dang stong pa dbyer med du 'dug pa pa la bya'o || gsang ba'i grong 'jug ni | rgas pa'i lus bzhag nas | gzhon pa shi ba'i rol dbugs zhugs nas | snying gi nang du rig pa bzhag ste | gzhon nu'i lus su gtong ba yin no || don gyi grong 'jug ni | lus thugs rje chen po'i skur 'jug || ngag 'om ma ñi padme hūṃ | zhes pas thugs rje chen po'i gsung du 'jug || yid stong nyid snying rje'i snying po can thugs rje chen po'i thugs su 'jug pa'o | x | mtshon pa'i grong 'jug ni | yi ge drug pas 'gro drug gi skye sgo bcad nas sku drug ye shes drug gi ngang du 'jug pa'o ||; MKB (B, e, fol. 302a1-5).

97 MKB (S, p. e, pp. 293.3-297.3).

98 MKB (S, e, pp. 460.3-461.1): om ma ñi padme hūṃ | sgyu lus la | phy'i sgyu lus ni | thugs rje chen por sgom pa de snang la rang bzhin med pa me long gi gzugs brnyan ltar gsal bar bya'o || nang gi sgyu lus ni | sems gsal la ma 'gags pa thugs rje chen po'i dgongs pa dang mi 'phral bar bya'o || gsang ba'i sgyu lus ni | dug lnga dang rnam par rtog pa thams cad ngos bzung med par rang byung 'dzin med du btang ngo || don gyi sgyu lus ni || sems nyid ma bcas pa sangs rgyas kyi rgyus thams cad la khyab ste | rang byung kun la khyab pa'o || rtags kyi sgyu lus ni | lus la bde bas khyab pas 'dod chags yul las skye | yul la 'dod chags spyad pas bde ba ngos zin nas 'dod chags lam du slong pa'o || mtshon pa'i sgyu lus ni | lus mi rtag sgyu mar shes nas chags zhen du mi 'dzin par lus la brten nas chos byed pa la sgyu lus zhes bya'o ||; MKB (B, e, fol. 302a5-b2).

99 MKB (S, e, p. 461.1-5): om ma ñi padme hūṃ | 'od gsal la | phy'i 'od gsal ni | phyi rol gyi yul snang thams cad snang la rang bzhin med pas | gsal la 'dzin pa gang yang med pa'o || nang gi 'od gsal ni | nang gi sems nyid gsal la ma 'gags par 'dzin med du gnas pa'o || gsang ba'i 'od gsal ni | sdug bsngal dang rnam rtog ma 'gags par rang shar 'dzin med du gnas pa'o || don gyi 'od gsal ni | chos nyid ma bcas rang byung du gsal ba la skye 'gag med par gnas pa'o || rtgas kyi 'od gsal ni | sems nyid gsal la ma 'gags par nyams su myong | rgyud la goms dris brtan pa thob tu yod pas 'di ngos zin pa'o || mtshon pa'i 'od gsal ni | phyi dbugs chad nas nang du bugs ma chad pa la | rig pa brgyal nas 'od gsal 'char ba de ngos zin pas | 'od gsal gong du sbyangs pa dang | rig pa brgyal ba'i 'od gsal gnyis 'od dang 'od 'dres pa ltar chos skur sangs rgya ba'o ||; MKB (B, e, fol. 302b2-5).

100 ツェリン・ティジン・リンポチェの解説によると、「パンツァリカ」は天の衣服を模倣した衣服である (H.E.Tsering 2007: I, 678)。

101 ツェリン・ティジン・リンポチェは「小豆」と訳している (H.E.Tsering 2007: I, 678)。

- 102 原文の sing は不明。
- 103 ツェリン・ティジン・リンポチェは“naturally”と訳している (H.E. Tsering 2007: I, 679)。
- 104 ツェリン・ティジン・リンポチェは、性行為や体力を使い果たすような仕事をした後の状態の例として挙げている (H.E.Tsering 2007: I, 679)。
- 105 原語の bras を 'bras と読み替えた。
- 106 MKB (S, e, pp. 461.5-462.3): gtum mo la | phyi'i gtum mo ni | spyi bor bla ma bsgoms la | lha'i na bza' banytsa li ga yar la dro ba thog nas gyon par bsam mo || nang gi gtum mo ni | lte ba'i lkog na don dam pa'i gtum mo drod kyi rang bzhin ril ma tsam zhid gnas pas | 'og rlung 'then te rlung gis gtum mo sbar nas me'i reg bya tsha bas | khong pa tsha ring la dros par bsam mo || gsang ba'i gtum mo ni | drod skyes pas bde bas gang nas bde sing la gnas par bsam mo || don gyi gtum mo ni | chos nyid rang gsal rtog med kyi ngang la hil dril la bzhag go || rtags kyi gtum mo ni | lus la drod skyes pas rtsa dros | rtsa dros pas thig le dros | thig le dros pas lus la bde ba skyes | bde ba skyes pas rig pa bde gsal mi rtog pa'i ngang la gnas | bde ba las longs sku | gsal ba las sprul sku | mi rtog pa las chos sku 'byung ngo || mtshon pa'i gtum mo ni | lus la drod skyes pas gos mi dgos | mi rtog pa bras su zos pas zas mi dgos | sems bde gsal la gnas pas sgom mi dgos pa yin no ||; MKB (B, fols. 302b6-303a4).
- 107 北村2021: 374では、唯明灌頂と名付けられている。
- 108 横殿2022a.
- 109 松長氏は、『秘密集会』のテーマについて、「……ただ数種の観法を寄せ集めたとしても、秘密集会という名のもとに統合される基本的な理念がないわけではない。もしそれを求めるとすれば、貪瞋痴の三毒煩惱に依拠し、行者の身、語、心の三種の活動を一体化させた瑜伽観法を修し、最終的に相対的な人間存在を聖化して、絶対的な仏としての自覚を得させる方法を説くことが『秘密集会タントラ』の主題だと言える」(松長2000: 243)と記述している。松長氏は、さらに、『秘密集会』が後に『真実撰経』(Tattvasamgraha)と融合すると述べている (p. 243)。
- 110 もしそうなら、『宝性論』瞑想学派の、ツォンカパへの影響を確認することができるだろう。中観他空派のゲツェ・マハーパンディタは、ツォンカについて、ナーローの六法とニグマの六法 (chos drug) に言及している (Makidono 2016: 27n102; Makidono 2018: 128)。

## 付言

本稿は、2021年11月13日に、日本チベット学会(広島大学)で発表した原稿を修正・加筆したものである。令和4年度日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究C(課題番号22K00062「チベットにおける如来蔵思想史の再構築」-ソンツェンガンボ王の遺言書を基にして-)の研究成果の一部として刊行する。